

令和 8 年度（令和 7 年度対象）

生駒市教育委員会活動点検評価報告書

令和 8 年 8 月

生駒市教育委員会

生駒市教育委員会活動点検評価報告書の作成にあたって

生駒市教育委員会では、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱である「生駒市教育大綱」で示された基本方針に基づき、具体的な施策及び事業を位置付けた教育大綱アクションプラン（以下「アクションプラン」という。）を毎年度策定しています。アクションプランについては、社会情勢の変化や教育を取り巻く課題、前年度の点検・評価の結果等を踏まえ、毎年度見直しを行っています。

第3次生駒市教育大綱は、子どもたちの学び方や価値観の多様化、誰もが安心して学ぶことのできる環境づくり、学校と地域の関係性、教職員の働き方など、教育を取り巻く状況の変化を踏まえて策定したものです。策定にあたっては、教職員等によるワークショップを18回実施したほか、市内小学校5、6年生及び中学生等へのアンケートも実施し、教育に関わる多様な立場の声を反映しながら、生駒市のこれからの教育の方向性を「みんなで作り上げた教育大綱」としてまとめています。

第3次生駒市教育大綱では、『自分らしく「遊ぼう」「学ぼう」「生きよう」みんなでいこまを楽しもう』を基本理念として掲げています。令和7年度は、この基本理念の実現に向けて、子ども主体の多様な学び、幼児教育・保育の充実、生涯学習・文化芸術活動やスポーツの推進、地域と共にある学校園づくり、教職員が働きやすい環境づくりなど、アクションプランに基づく施策及び事業に取り組んでまいりました。

本報告書により、第3次生駒市教育大綱の理念の実現に向けて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づく生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、アクションプランに掲げられた施策及び事業を中心に、令和7年度の実績の点検・評価を行いましたので、同法第26条の規定により報告します。

本報告書における点検・評価を通じて、各施策及び事業の成果と課題を明らかにし、次年度以降の改善につなげていくことで、第3次生駒市教育大綱に掲げる理念の実現を着実に進めてまいります。

令和8年8月18日

生駒市教育委員会

教育長 原 井 葉 子

目 次

生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価

について	1
1 報告書の位置付け	1
2 国等の動向	1
3 点検評価の概要	2
4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見	6
教育委員会の活動状況	7
教育大綱に基づく施策・事業	10
基本方針1 主体的に楽しく学ぶ人であるために	10
1 あらゆる世代の主体的な学びの推進	10
2 多様性を認識・尊重し行動できる態度の養成	20
基本方針2 学びを通してつながり合える地域であるために	26
1 学びをきっかけとした市民同士の交流や新たな活躍の機会づくり ..	26
2 市民同士がゆるやかにつながり、学び、支え合える基盤づくり ...	37
基本方針3 多様な学びを支える環境づくりのために	45
1 「楽しい学校園づくり」のための学校園運営体制の整備	45
2 こどもたちの新たな学びを創出する環境整備	51
3 全ての市民が安心して学び成長できるための環境整備	59
点検及び評価に関する意見	68

生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価について

1 報告書の位置付け

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という。）第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

2 国等の動向

国では、改正法が平成27年4月に施行され、教育委員会制度が大きく変わりました。

また、学習指導要領が平成28年度末に改訂され、幼稚園は平成30年度、小学校は令和2年度、中学校は令和3年度から新たな学習指導要領に基づく教育課程や指導が実施され、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取組や、小学校高学年での「外国語科」の導入など、教育を取り巻く環境が大きく変わりました。

あわせて、令和2年度には新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、GIGAスクール構想が前倒しされ、情報端末が児童生徒1人に1台配備されました。また、中央教育審議会では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を柱とした「令和の日本型学校教育」の実現が求められています。

生駒市では、平成28年6月に「生駒市教育大綱」を策定し、基本理念である「『遊ぶ』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けた具体的な取組を「アクションプラン」として掲げ、毎年度PDCAサイクルに基づく効果的な進行管理を行うことにより、より実効的な施策・事業を推進しています。

なお、本大綱は推進期間が4年間とされていたことから、令和2年6月に第2次生駒市教育大綱を策定し、具体的な取組を進めてきました。

令和6年度には、策定から4年が経過した第2次生駒市教育大綱を社会情勢の変化やアクションプランにおける実績や成果等を踏まえて、新しく第3次生駒市

教育大綱を令和 6 年 6 月に策定しました。

【生駒市教育大綱策定の経緯】

平成 28 年 6 月 生駒市教育大綱 策定

令和 2 年 6 月 第 2 次生駒市教育大綱 策定

令和 6 年 6 月 第 3 次生駒市教育大綱 策定

3 点検評価の概要

(1) 点検評価の対象

教育委員会が行っている活動を大きく下記の 2 つに分類し、それらを構成する各施策・事業について、点検評価を行います。

①教育委員会の活動状況

②第 3 次生駒市教育大綱に基づく施策・事業

第 3 次生駒市教育大綱体系図

基本理念 自分らしく「遊ぼう」「学ぼう」「生きよう」みんなでいこまを楽しもう

基本方針 1 主体的に楽しく学ぶ人であるために

1 あらゆる世代の主体的な学びの推進

2 多様性を認識・尊重し行動できる態度の養成

基本方針 2 学びを通してつながり合える地域であるために

1 学びをきっかけとした市民同士の交流や新たな活躍の機会づくり

2 市民同士がゆるやかにつながり、学び、支え合える基盤づくり

基本方針 3 多様な学びを支える環境づくりのために

1 「楽しい学校園づくり」のための学校園運営体制の整備

2 こどもたちの新たな学びを創出する環境整備

3 全ての市民が安心して学び成長できるための環境整備

(2) 点検評価の方法

各事業の取組の実績を踏まえ、達成状況を4段階の評価基準をもって評価します。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得た。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した。
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない。
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない。

評価にあたっては、アクションプラン掲載事業については目標に対する達成度を評価するとともに、取組内容や当該事業等の実施によってどのような効果が得られたのかを明確にして評価を行います。

未達成の事業や取組が十分でない事業がある場合は、その要因と理由を明確にし、次年度以降の活動や事業等の実施に活かします。

(3) 評価の総括

教育委員会の活動状況

事業数7 S : 0 A : 7 B : 0 C : 0

事業名	評価
教育委員会会議の開催	A
学校訪問、各施設視察、研究発表会・学校行事の参観	A
その他市教育委員会主催事業等への参加	A
教育委員としての資質・能力の向上	A
各種教育機関との連携	A
総合教育会議の開催（会議は市長が主催）	A
教育大綱アクションプランの策定	A

教育大綱に基づく施策・事業

総事業数 66 S : 3 A : 57 B : 6 C : 0

基本方針 1 主体的に楽しく学ぶ人であるために

事業数 21 S : 2 A : 18 B : 1 C : 0

1 あらゆる世代の主体的な学びの推進	評価
小学校高学年教科担任制推進事業	A
学校図書館の充実による読書活動推進	A
生駒こどもチャレンジ補助事業	A
部活動支援事業	A
キャリア教育推進事業	S
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善の支援	S
教育・保育の質の向上	A
保幼小接続推進事業	A
ビジネス支援事業	A
多様な働き方を考える講座	B
小学校1年生30人程度学級の実施	A
2 多様性を認識・尊重し行動できる態度の養成	評価
自殺対策推進事業	A
デジタルシティズンシップ教育の推進	A
いじめ防止等の施策推進	A
特別支援教育の充実	A
不登校支援推進	A
校内サポートルーム事業	A
自校式通級指導教室推進事業	A
スクールカウンセラー配置の拡充	A
スクールソーシャルワーカー配置の拡充	A
図書館読書バリアフリー事業	A

基本方針 2 学びを通してつながり合える地域であるために

事業数 18 S : 0 A : 18 B : 0 C : 0

1 学びをきっかけとした市民同士の交流や新たな活躍の機会づくり	評価
いこま教育フォーラム	A
幅広い世代への学ぶ機会の提供と地域の人材活用	A
高齢者教育推進事業	A
学びと活躍推進事業	A

歴史・伝統文化の学びの場の提供と発信	A
「音楽のまち生駒」推進事業	A
市民との連携や「協創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり	A
地域スポーツ推進事業	A
新たな地域クラブ活動推進事業	A
2 市民同士がゆるやかにつながり、学び、支え合える基盤づくり	評価
放課後子ども教室の運営	A
コミュニティ・スクールの推進	A
幼稚園コミュニティ・スクールの充実	A
高齢者の学びを「行動」につなげられる仕組みづくり	A
家庭・学校・地域が連携した家庭教育の支援	A
「人を通して人を知る」「本を通して人を知る」をキャッチフレーズとするビブリオバトル全国大会の開催	A
こども読書活動における家庭・地域・学校の連携	A
総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	A
スポーツ推進審議会の開催、スポーツ推進委員の運営	A

基本方針3 多様な学びを支える環境づくりのために

事業数 27 S:1 A:21 B:5 C:0

1 「楽しい学校園づくり」のための学校園運営体制の整備	評価
教職員のウェルビーイングを実現する働き方改革	A
学校屋内運動場空調設備整備事業	S
先進校視察支援事業	A
講師不足対策	A
「教頭の業務の再定義」を核とした学校の業務改善と教師の働き方改革施策	A
市立幼稚園における預かり保育の実施	A
特別支援教育の充実	A
積極的な情報公開と学校評価の実施	A
2 こどもたちの新たな学びを創出する環境整備	評価
小中学校施設の計画的な大規模改修事業	B
生駒南小学校・中学校整備事業	A
これからの時代の学校図書館のあり方創造事業	B
教育系ネットワーク更新	A
保育料の段階的な無償化	A
待機児童の解消に向けた取組	B
市立保育所の老朽化施設の更新	A

壱分幼稚園のこども園化	A
学童保育の充実	A
3 全ての市民が安心して学び成長できるための環境整備	評価
困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実	B
図書館リニューアル事業	A
『生駒市史』編さん事業	A
市史編さん収集資料活用事業「いこま歴史アーカイブ」	A
生涯学習施設整備事業	A
体育施設整備事業	B
総合公園体育施設リニューアル事業	A
生駒ふるさとミュージアム管理運営	A
文化芸術事業	A
文化財保護と歴史文化の普及	A

4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見

点検及び評価にあたっては、法第26条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、生駒市教育委員会活動点検評価委員2名を委嘱し、教育委員会による自己評価に対し、同委員から意見が提出されています。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育委員会の活動状況

事業名	教育委員会会議の開催	
事業の概要	定例会及び臨時会を開催し、議案及び報告案件を審議する。 教育委員会が所管する予算、規則の制定改廃、人事案件等について議決、承認を行う。	
実績・成果	【会議開催回数】定例会：12回 臨時会：2回 【審議件数】議案：32件 報告案件：23件	
評価	A	直接会議の場に参加ができない場合でもオンラインを活用することにより会議に参加できる環境が整えられていることで、委員が直接議論を行う機会を創出でき、規則の制定改廃や学校での事案等の各案件について、十分な審議の上、遅滞なく議決、承認を行った。
担当課	教育総務課	

事業名	学校訪問、各施設視察、研究発表会・学校行事の参観	
事業の概要	定期学校訪問を実施。 30校園を対象に訪問し、授業の参観及び学校運営全般にわたる視察を行う。	
実績・成果	市内30校園で学校訪問を実施し、学校経営、教育課程の運用、学習指導など学校教育全般にわたり、学校園の実態に即して指導助言するとともに、各学校が主体的に、より充実した教育活動や特色ある学校経営が推進できるよう支援した。また、授業の在り方を見直し、授業改善を進めるように助言した。	
評価	A	「主体的な学びの促進」「地域の拠点となる地域に開かれた学校づくりの推進」「多様な学びを創出する環境・場づくりの推進」について各学校園の取組を聞き、助言を行った。
担当課	学校支援課・幼保こども園課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	その他市教育委員会主催事業等への参加	
事業の概要	二十歳のつどい、市民スポーツ大会及び市民体育祭、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会等へ参加する。	
実績・成果	開催された教育委員会主催事業に参加した。 (二十歳のつどい、市民スポーツ大会、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会)	
評価	A	市教育委員会等が主催する行事に参加し、市教育行政について理解を深めることができた。
担当課	教育総務課	

事業名	教育委員としての資質・能力の向上	
事業の概要	全国及び県で開催される研修会等へ参加し、教育委員としての資質・能力の向上を図る。	
実績・成果	市町村教育委員会研究協議会、近畿市町村教育委員会研修大会、奈良県市町村教育委員会連合会研修大会に参加。	
評価	A	対面に加えて、オンラインで開催された研修会にも積極的に参加することで、教育委員各個人において研鑽を積み、能力向上につなげた。また、国の動向や県内外の市町村教育委員会の現状や課題を把握したことは、教育委員の資質向上に有効であった。
担当課	教育総務課	

事業名	各種教育機関との連携	
事業の概要	教育委員会が設置する附属機関や教育関係機関・団体等の活用・連携により、多種多様な教育課題に的確に対応する。	
実績・成果	附属機関の活用や教育関係団体との連携を図った。 (社会教育委員、スポーツ推進審議会、子ども・子育て会議、市史編さん委員会)	
評価	A	例年同様に附属機関を効果的に活用し、多様化する教育課題への的確な対応を行った。教育関係機関との連携にも、継続的かつ積極的に取り組んだ。
担当課	教育総務課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	総合教育会議の開催（会議は市長が主催）	
事業の概要	ICT 教育や小中一貫教育をはじめとする教育環境の充実について、市長と協議を行う。	
実績・成果	総合教育会議を3回開催し、「学びの多様化学校の設置検討について」、「生駒市幼稚園再編にかかる基本方針（案）について」、「生駒市幼稚園再編に係る基本方針の策定について」を協議した。	
評価	A	本市の教育行政に係る重要課題である学びの多様化学校の設置や幼稚園の再編について、市長と教育委員が総合教育会議の場で協議を行うことで、共通認識を持ったうえで生駒市全体で取り組むことができる環境を整えることができた。
担当課	教育政策室	

事業名	教育大綱アクションプランの策定	
事業の概要	大綱の基本理念及び基本方針を実現するため、具体的な施策・事業を掲げたアクションプランを策定し、PDCA サイクルに基づく実効性のある取組を推進する。	
実績・成果	令和6年6月に策定した第3次生駒市教育大綱に基づく教育大綱アクションプランを策定した。作成にあたり、昨年度に策定した教育大綱アクションプランの進行状況を確認し、適宜見直しを図りながら教育大綱の基本理念及び基本方針の実現に向けて進行管理を行った。	
評価	A	教育大綱策定にあたり、教育大綱アクションプランの進行状況を確認することで、PDCA サイクルに則った事業管理を行うことができた。
担当課	教育政策室	

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
【教育政策室】 第3次生駒市教育大綱の基本理念や基本方針が形骸化しないように、掲げる基本理念や基本方針の本質を理解し、関係者それぞれが取り組む事業に落とし込んでいく必要がある。	事業を進めていく際には、その事業により目指す姿を強く認識し、その姿が教育大綱と繋がっていることを理解できるように、事業に関係する者が対話により共通理解を図る機会を設けていく。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育大綱に基づく施策・事業

基本方針 1 主体的に楽しく学ぶ人であるために

1 あらゆる世代の主体的な学びの推進

〔アクションプラン掲載事業〕

事業名	小学校高学年教科担任制推進事業	
事業概要	文部科学省は令和 4 年度から、教科指導の専門性向上と学校の働き方改革を目的として、小学校高学年での教科担任制を推進している。市内小学校においても、専科教員の加配を県に申請し、高学年における教科担任制の導入に取り組んでいるところである。 加配された教員は全学校に配置されるには十分でない。そこで、県への専科教員の加配を求めつつ、学年全体で学級担任も含めた教科担任制の態勢を整備する。これにより担任一人が学級の問題を抱え込むことなく、多くの教師が連携して児童一人一人の学びを支援していくことを目指す。	
目標	専科教員を加配することで、高学年において教科担任制を進める。	
取組設定	・各小学校に適正な人数を配置	
実績・成果	適正な人数である、全小学校（12校）へクラス数に応じた教員を配置することができた。	
評価	A	高学年に教科担任が入ることで、専門的が高い授業が行えるようになった。また、児童に関わる教師が増えたことで、多様な視点で子どもを捉えることができ、学習面・生活面ともに良い効果が生じた。
担当課	教育総務課・学校支援課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	学校図書館の充実による読書活動推進	
事業の概要	専門的な力を有する学校司書を配置することで学校図書館の魅力化・活性化を図り、児童生徒の読書活動を推進する。	
目標	目標名	目標値
	①学校司書配置日数 ②市内中学生ビブリオバトル開催数	①3日/週 ②1回/年
取組設定	・学校司書を全小中学校に配置 ・ビブリオバトル市内中学生大会の実施	
実績・成果	・小中学校に週3日学校司書を配置した。 ・ビブリオバトル開催数：1回	
評価	A	学校司書と司書教諭が連携し、図書館環境の整備や関連イベントの開催を通じて、児童生徒の読書意欲を高めた。特に、学校司書が中心となって実施した中学生対象のビブリオバトルは、生徒が主体的に本と向き合う機会となり、読書活動の活性化に寄与した。
担当課	学校支援課	

事業名	生駒こどもチャレンジ補助事業	
事業の概要	子どもが課題に挑戦する機会を拡充すると共に、学校の各種コンテスト等の運営経費を補助する制度を設ける。児童生徒が挑戦し、実現し、達成感を味わうことができる機会を増やすことで、児童生徒の創造性が培われ、自己肯定感も高められるように支援する。	
目標	目標名	目標値
	実施学校数	2校
取組設定	・生駒こどもチャレンジ補助事業の継続実施	
実績・成果	1校がロボットコンテストに、1校がプラスバンドのコンテストに参加した。	
評価	A	コンテストに参加し、チームで協力することを通して、達成感を味わう機会を複数校で提供できた。
担当課	学校支援課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	部活動支援事業	
事業の概要	中学校において、専門的な技術指導力を備えた指導者が不在の部に対し、地域の適切な人材を外部指導者として派遣し、部顧問と協力して指導・助言を行うことにより、部活動を充実させる。また、生徒自身も外部指導者と協働し主体性をもって活動できるように支援する。	
目標	目標名	目標値
	部活動指導員配置時間数	4320時間
取組設定	・中学校に外部指導者を配置	
実績・成果	バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、ソフトボール、バドミントン、野球、サッカー、剣道、水泳、吹奏楽、茶道など、専門的な技術指導力を備えた外部指導者を市内全中学校（8校）に派遣。部活動指導員実施時間数 3,882時間	
評価	A	専門的な技術指導力を有する人材が不足する中で、学校長が必要と判断した部活動に対して、適切に外部指導者を派遣できた。先行して地域移行を行った部活動では、部活動指導員が地域指導者としても登録され、スムーズな移行と連携が行えた。
担当課	学校支援課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	キャリア教育推進事業	
事業の概要	あこがれいこまびと講演事業、学校創造推進事業、キャリア教育プランナーとの連携事業を行う。地域出身の文化人、スポーツ関係者、事業者等、社会で活躍されている方と連携し、体験活動や講演等を通して、児童生徒が郷土愛を持ち、自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って将来社会で活躍できる人材を育成する。また、児童生徒の思いや考えも大切にし、どのような学びを必要としているのか声を拾いあげ、カリキュラムの中に反映する。	
目標	目標名	目標値
	キャリア教育プランナーとの連携事業数	20回
取組設定	・あこがれいこまびと講演事業、学校教育創造推進事業、キャリア教育プランナーとの連携事業の実施 ・取組のカリキュラム化	
実績・成果	学校が主体となりキャリア教育を進めていけるように、助言・支援を行った。キャリア教育プランナーとの連携事業は9回実施。 あこがれいこまびと講演事業や学校創造推進事業においても、地域の多様な大人との出会いの場を通して、児童生徒が将来の自分の姿を思い描き、学ぶ意欲を高める取組が継続された。	
評価	S	地域とつながる多様なキャリア教育の機会が継続的に提供され、児童生徒が自らの将来を主体的に考えるきっかけとなった。連携事業数は減っているが、プランナーとの継続的な連携と助言により、学校現場で自走する体制が整ってきており、質・量ともに充実してきている。
担当課	学校支援課・教育政策室	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善の支援	
事業の概要	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善の支援として、希望する教職員を対象に、継続的な伴走型研修や助言を受けられる機会を提供する。また、インターネット上に用意された空間を利用し、学校間を越えて、教職員同士が学び合える場を提供する。	
目標	目標名	目標値
	伴走型研修参加人数	30人
取組設定	・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善のための伴走型研修の実施	
実績・成果	令和7年度は、伴走・越境型研修を6月下旬から3月末まで年間を通して実施し、市内67名、市外65名程度の教職員が参加した。研修では、開始前相談、オリエンテーション、各講師による講座、実践上の悩みや課題を持ち寄る対話、対面交流研修、中間報告会、最終報告会、教科別の学び、ふり返り等を位置付け、単発ではなく継続的に学びを積み重ねられる構成とした。 昨年度の取組を踏まえ、今年度はオンラインだけでなく、実際に会って学び合える対面の機会をより大切にした。対面研修については、研修登録者だけでなく会場校の先生方も参加できる形とし、生駒南小・中、生駒北小中、生駒南第二小、生駒台小等を会場校とすることで、学校を越えてさまざまな先生方が混ざり合う機会をつくった。市外の参加者については近畿圏内の先生方を中心としたことで、実際に会って越境的に学び合える関係が生まれやすくなった。オンライン上で交流できるスペースも設置し、そこでは、先生同士が試行錯誤の途中を共有し、互いの実践から学びを広げたり、不安を和らげたりできるようにした。オンライン上の交流スペースでの出会いや対話をきっかけに、当該交流スペース外での相談や交流、授業参観等へとつながる動きも見られた。	
評価	S	令和6年度に立ち上がった伴走型研修について、対面と非同期、市内と市外、登録者と会場校といった複数の関わり方を重ねながら継続的に学び合える環境を育てることができた。また、目標の倍以上の参加者があり、自ら学びたいという意欲を持った教職員が多数交流することでより高いレベルの学び合いに繋がった。一方で、オンライン上の交流スペースでの発信や交流に慣れていない先生方もおり、参加の仕方をさらに柔軟に設計していくことが課題である。動画視聴やオンライン中心の関わり方も含め、より参加しやすく学びやすいコース設計を模索していきたい。
担当課	学校支援課・教育政策室	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	教育・保育の質の向上	
事業の概要	全国的に報告されている保育施設内での不適切な保育の事例等から教育・保育の質の向上を実現するための手がかりを得る。また、より質の高い適切な教育・保育とは何かを考え、学び合い、子どもの人権を尊重した教育・保育のあり方を再確認し、実践するために研修内容の充実を図る。	
目標	目標名	目標値
	研修開催数	2回
取組設定	・公私立職員を対象にした研修会を実施	
実績・成果	人権を守る保育・教育に携わる者の意識の向上と、実践につながる研修によるスキルの向上の両方を図ることができた。研修に参加した職員が、職場へ戻り、内容を周知することで更に多くの職員の意識の向上につなげることができた。	
評価	A	日頃の保育の中で活用できる研修を実施したことで、保育の質の向上につなげることができた。
担当課	幼保こども園課	

事業名	保幼小接続推進事業	
事業の概要	幼児と児童、職員同士の交流、参観や研修等具体的な取組を通して、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿や主体的・対話的で深い学びについて、互いの教育を理解して有効な接続を図ることができるようにする。	
目標	市内公私立幼稚園・保育所・こども園・公立小学校が連携し、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図る。	
取組設定	・接続カリキュラムの実態把握 ・課題の検討 ・改善方法の検討 ・具体的な実践への適用	
実績・成果	6月、9月、1月と接続推進会議を開催し、全体研修や情報交換の機会をつくりながら、架け橋期カリキュラムの評価、見直しと、小学校区内での幼保こ小交流を通して、互いの教育を理解して有効な接続を図ることができるように進めた。	
評価	A	保幼小接続プログラムは昨年度一旦取組完了としたが、架け橋期カリキュラムが、今後もより良いものとしていくため継続して進めていく。
担当課	幼保こども園課・学校支援課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	ビジネス支援事業	
事業の概要	ビジネスに役立つ知識を学ぶ場として連続講座を開催し、様々な仕事に携わる市民が集い情報交換し交流することにより、新しいネットワークを作り出す。 多様な参加者が興味を持つテーマとして、生涯学習課と連携を取りながら、ビジネスや本、歴史等に関する講座を開催し、語り合う場を設ける。(令和7年度からは「学びと活躍推進事業」の枠内で実施する)	
目標	目標名	目標値
	1回あたりの平均参加者数	20人
取組設定	・働く世代が興味を持つテーマを中心に連続講座を5回開催	
実績・成果	大河ドラマで話題となった蔦屋重三郎をテーマに江戸の文化やビジネスについて5回開催。延べ310人、1回あたり62人参加。	
評価	A	生涯学習課と図書館が連携して開催。お互いの強みを活かして多くの参加者があり、好評の声を多くいただいた。
担当課	図書館・生涯学習課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	多様な働き方を考える講座	
事業の概要	主に高校生を対象に、起業や副業など様々な働き方を実践する人とふれあいその実態を学ぶ講座の開催を通して、働くことに関する自分自身の思いと向き合い、自分のやりたい事や問題意識をもとに自らの進路を考える意欲を高める機会を創出する。 講座の開催に際し、キックオフとして自分自身の思いや問題意識を大切にしたい働き方の実践者を招き保護者も対象とした講演会を開催し、多様な働き方への理解を深める機会とする。	
目標	目標名	目標値
	講座の参加者数	50人
取組設定	・キックオフ講演会の開催 ・「(仮)多様な働き方を考える講座」の開催	
実績・成果	講座を4回、講演会1回を開催した。 講座(8/4、9/13、9/27、2/8)38人、 講演会(3/21)195人参加。 講座において副業や転職を経験した方々の話を聞く事で、将来の自分について考える機会を提供することができた。講演会では、保護者世代に対しても広い視野で子どもの将来を見守ることの大切さを伝えることができた。	
評価	B	高校生に限定して実施した講座では参加者数が目標値を下回る結果となったが、広く参加者を募集した講演会では多くの参加があった。このことで「多様な働き方」に多くの市民が興味関心を持っていることがわかった。 今後は視野を広く持ち、世代を限定せずに取り組みを進めていく。
担当課	生涯学習課	

【その他事業】

事業名	小学校1年生30人程度学級の実施	
事業の概要	本市独自の取組として、学校教育の充実を図るため、小学校1年30人程度学級を実施する。	
実績・成果	全小学校を対象に30人程度学級を実施することで、小学校1年生に対して、きめ細かい指導を行った。	
評価	A	国の少人数学級の実現として、35人学級が実施されることとなり、1年生について30人程度となるように、市で講師を配置し、引き続きすべての学校を対象に達成することができた。
担当課	教育総務課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
【学校支援課】 令和８年度から休日における教員の指導による学校部活動を地域部活動に移行する体制は整ったが、平日の部活動の地域移行をどうしていくかを検討する必要がある。	平日の部活動の地域移行において、学校支援課とスポーツ振興課が連携をして、学校部活動の在り方について検討し、子どもたちがやりたいスポーツ環境を整えていく。
【教育政策室】 授業改善の伴走型支援の参加方法を柔軟にし、参加のハードルを下げる工夫を行う必要がある。	参加の負荷が異なる複数のコースを設け、業務と両立しながら学ぶことのできる環境を作る。
【幼保こども園課】 不適切保育防止に向けた研修を開催するにあたり、日頃の保育の中で活用できる研修とはどのような内容であるか、検討を引き続きしていく必要がある。	これからも、保育現場におけるその時々のお悩みに耳を傾けることを大事にした研修としていく。
【生涯学習課】 自分の将来や進路を考える時期に来ている高校生をターゲットとしたが参加者が少なく、事業の目標に達することができていない。	保護者世代には、子どもが将来や進路を考えるとときに寄り添い、大人と子どもがともに答えを見つけることができるよう、ターゲットとなる年齢層を拡大し、異世代が共有できる事業を展開していく。
【図書館】 図書館が、大人の学ぶ場となるよう、多岐にわたるテーマから、どのようなものを選び提供していくかが課題である。	これまであまり図書館が取り扱ってこなかった自然科学分野等を取り扱い、市民の学びの推進に寄与するか試行する。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

< 参考データ >

市立小・中学校 児童生徒数（令和 7. 5. 1 時点）（単位：クラス、人）

小学校名	クラス数	児童数
生駒	30	770
生駒南	17	315
生駒北	9	135
生駒台	31	747
生駒東	17	415
真弓	25	602
俵口	20	413
鹿ノ台	23	505
桜ヶ丘	27	638
あすか野	30	729
壱分	31	740
生駒南第二	9	176
合 計	269	6185

中学校名	クラス数	児童数
生駒	18	532
生駒南	8	150
生駒北	7	73
緑ヶ丘	15	456
鹿ノ台	11	247
上	19	633
光明	11	331
大瀬	17	493
合 計	106	2915

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 多様性を認識・尊重し行動できる態度の養成

[アクションプラン掲載事業]

事業名	自殺対策推進事業	
事業の概要	令和6年3月に策定した「生駒市自殺対策計画」に基づき、「SOS の出し方に関する教育」の研修を実施する。そして児童生徒の心身の状況の把握や児童生徒への相談窓口の周知徹底を行い、スクールカウンセラー等を活用する。	
目標	目標名	目標値
	研修回数	21回
取組設定	・初任者研修での実施 ・各校にて児童生徒に対して開催	
実績・成果	・初任者研修と児童生徒対象に SOS の出し方授業を開催した。 ・全校(20校)にて授業を開催した。/回数:21回	
評価	A	児童生徒の自殺の現状や、自殺に至る要因などを学ぶことによって、児童生徒の自殺に対しての学校・教員の危機感を高めた。 また、教員がカウンセリングマインドを身につけることの重要性や、自傷行為を行う児童生徒に対する対処法などを学ぶことで、学校として可能な対応についての理解が浸透した。
担当課	教育総務課・学校支援課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	デジタルシティズンシップ教育の推進	
事業の概要	情報社会における安全やルールを児童生徒が主体的に考え、正しく理解し行動するための情報モラルを育成する。	
目標	目標名	目標値
	情報活用リテラシー自己評価（児童生徒）	60%
取組設定	・各校で教職員対象の研修	
実績・成果	指導主事による教員向け情報リテラシー研修を実施した。 生駒市で新たに作成した教育情報セキュリティポリシーの研修を全教職員に対して実施した。 情報活用リテラシー自己評価：62.7%	
評価	A	指導主事による教員向け情報リテラシー研修を実施するとともに、教育情報セキュリティポリシーの研修を実施し、教職員のセキュリティ意識の向上に努めた。
担当課	学校支援課	

事業名	いじめ防止等の施策推進	
事業の概要	令和4年4月に策定した「生駒市いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止や早期発見につながる取組を推進する。	
目標	目標名	目標値
	いじめ問題対策連絡協議会開催回数	2回
取組設定	・生駒市いじめ問題対策連絡協議会の開催 ・いじめアンケートの実施 ・発達支持的生徒指導の考え方に基づいた児童生徒支援	
実績・成果	生駒市いじめ問題対策連絡協議会を2回開催した。	
評価	A	生駒市いじめ防止基本方針の改定内容について、協議を行い専門的な知見からいただいた意見を反映し改定を行った。
担当課	学校支援課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	特別支援教育の充実	
事業の概要	令和 4 年文部科学省の調査では、通常学級に在籍する「特別な支援を必要とする児童生徒」の割合は約 8.8% である。特別支援学級在籍児童生徒の教育的ニーズを把握し適切な支援を行う。	
目標	それぞれの障がい特性に合わせた支援を行える体制を整備する。	
取組設定	・特別支援教育支援員の配置 ・特別支援教育コーディネーター研修の実施(年 9 回)	
実績・成果	特別支援教育支援員を小学校 12 校、中学校 8 校にのべ 5,065 日配置した。	
評価	A	特別支援学級在籍児童生徒や通常学級に在籍し特別な支援を必要とする児童生徒の教育活動を支える環境を整えた。
担当課	学校支援課	

事業名	不登校支援推進	
事業の概要	学校に登校しづらい児童生徒に対して居場所となる「子どもの居場所・学び支援室」の設置運営。	
目標	児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるようにするための体制を学校外に整備する。	
取組設定	・安心して過ごせる環境と体制の確立 ・ほっとルーム入室対象を小 1～中 3 に拡大する ・心理相談員の配置	
実績・成果	心理的あるいは情緒的な原因などにより学校に通いづらい児童生徒に対し、居場所支援を行った。ほっとルームの在籍児童生徒数は、いきいき 46 名、のびのび 41 名である。	
評価	A	心理的あるいは情緒的な原因などにより学校に通いづらい児童生徒に対し、安心して過ごせる環境整備及び支援体制を確立できた。
担当課	学校支援課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	校内サポートルーム事業	
事業の概要	教室に入りづらい児童生徒を対象に、安心して過ごせる居場所を学校内に設置し、不登校支援を推進する。	
目標	児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるようにするための体制を学校内に整備する。	
取組設定	・10校に校内サポートルームを設置	
実績・成果	10校において校内サポートルームを設置した。環境整備、ガイドラインの作成及び校内サポートルーム支援員を配置した。	
評価	A	校外の生駒市子どもの居場所・学び支援室だけでなく、児童生徒が安心して過ごせる居場所を校内にも設置することにより、教室に入りづらい児童生徒の支援を行った。校内サポートルーム利用児童生徒147名
担当課	学校支援課	

事業名	自校式通級指導教室推進事業	
事業の概要	支援が必要な児童生徒が増加しており、通級指導を行える教員を増やしていく必要がある。今後、県の通級指導担当教員の配置増に合わせ、通級指導を行う教員を育成する。また、通級指導教室の運営について指導助言及び運営補助を行い、自校式の通級指導教室を推進する。	
目標	支援が必要な児童生徒が自校で通級指導を受けることができるように体制の充実を図る。	
取組設定	・8校に補充教員を配置	
実績・成果	全校にて自校式通級指導教室を準備し、指導を実施。 小学校3校、中学校1校に対し、通級による指導を学ぶ教員への補充教員の配置。	
評価	A	自校に通級指導教室を準備したこと、教員が通級による指導を学ぶ機会を設けることで、必要な児童生徒に必要な支援が届けられるようにした。
担当課	学校支援課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	スクールカウンセラー配置の拡充	
事業の概要	不登校や学校生活に関わる悩み等を抱える児童生徒に対してカウンセリングを行うとともに、教員及び保護者に対する指導・助言・支援を行うことを通じて学校のカウンセリング機能や教育相談体制の充実を図る。	
目標	悩みを抱える児童生徒・保護者・教職員が安心して相談できるように相談体制の充実を図る。	
取組設定	・スクールカウンセラーの配置 中学校(月4) 小学校(月2) ・スーパーバイザー(年30回) ・教育支援施設(毎週2人) ・SOSの出し方の授業を行う ・心理相談員の配置	
実績・成果	市費スクールカウンセラーを、中学校で週に1回、小学校で月に2回、1回4時間の活用を行った。ほっとルームに心理相談員を配置することで、アセスメントを行いながら支援を行う体制が整った。	
評価	A	スクールカウンセラーの活用を通して、学校、児童生徒、教員及び保護者に対する指導・助言・支援を行い、学校のカウンセリング機能や教育相談体制の充実を図ることで適切な対応ができるとともに、より多くの相談への対応が可能となった。
担当課	学校支援課	

事業名	スクールソーシャルワーカー配置の拡充	
事業の概要	社会福祉等の専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカーを配置し、問題を抱えた児童生徒に対し、置かれた環境に働きかけたり、関係機関等とのネットワークを活用したりするなど多様な支援方法を用いて、課題解決への対応を図る。	
目標	支援が必要な児童生徒に対して課題解決ができる体制を整える。	
取組設定	・不登校支援体制を整える ・学校へ訪問し、現地で相談を受け対応する	
実績・成果	スクールソーシャルワーカーを週に1回教育支援施設に配置し、学校の要請に応じて派遣を行った。不登校及び社会的な問題を抱える児童生徒の支援について助言を得た。	
評価	A	スクールソーシャルワーカーを週に1回教育支援施設に配置し、学校の要請に応じて派遣した。不登校支援体制の整備における課題の洗い出し及び今後の方向性についても、助言をもとに体制を整備した。
担当課	学校支援課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	図書館読書バリアフリー事業	
事業の概要	障がい、高齢等の理由により、図書館の利用に困難を感じている人が気軽に利用できる図書館を目指し、ボランティアとともに読書推進を行う。	
目標	図書館利用に障がいがある人にとって、図書館が読書に親しむ場となるだけでなく、様々な活動を通して、社会参画の場となることを目指す。	
取組設定	・音訳ボランティア養成講座、音訳サービスの実施 ・宅配サービスの実施 ・知的障がい者のための代読サービス実施 ・NAIST 連携事業 留学生とFun Time !	
実績・成果	各事業の参加者（実績）は、音訳ボランティアの養成講座10回延べ137人、耳で楽しむ本の会12回延べ337人、対面音訳53回、宅配サービス377回、知的障がい者の図書館利用55回、施設への出前2回、NAIST 連携事業3回延べ57人となった。	
評価	A	図書館本館がリニューアル工事により休館している間も、分館・分室で連携をとり、サービスを継続。知的障がい者による読み聞かせを開始。
担当課	図書館	

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
【学校支援課】 市内小中学校10校に対し、実証として校内サポートルームを設置した。他の学校に対しても同様に教室に入りづらい児童生徒の居場所づくり及び支援体制を整えていく必要がある。	令和8度は校内サポートルームを全小中学校に設置し、教室に入りづらい児童生徒の居場所づくり及び支援を行う。
【図書館】 図書館におけるサービスは、年々充実しているが、代読サービスについては、利用者が限定的なものとなっている。	知的障がい者のサービスについて、ボランティア養成講座を開催し、もっと気軽に図書館を利用してもらえ環境を市民とともに作っていく。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針2 学びを通してつながり合える地域であるために

1 学びをきっかけとした市民同士の交流や新たな活躍の機会づくり

【アクションプラン掲載事業】

事業名	いこま教育フォーラム	
事業の概要	生駒市の学校教育の“今”を知り、“これから”を考える「いこま教育フォーラム」を継続的に開催し、これからの生駒の地域と学校について、教育委員会と地域住民と保護者が共に考え、学ぶ機会を設ける。	
目標	目標名	目標値
	開催回数	2回
取組設定	・いこま教育フォーラムの実施	
実績・成果	令和7年度は、「一人ひとりの『学び』から考える『教育』のこれから」と「『不登校』という言葉の向こう側へー共に育つ、共に学ぶ支援のかたちー」をテーマに、いこま教育フォーラムを2回開催した。 1回目は、子どもたちが自らの学びを通じて、自分らしく生きる力を養うことができるように、教職員が取り組んでいる事業実践の共有や試行錯誤の報告を行い、これからの教育に必要なことを参加者同士で考える機会となった。2回目は、これまでの「不登校」を単なる課題として捉えるのではなく、社会や教育のあり方に対する深い問いとして発展させることを目的に、行政と学校だけでなく、当事者や支援者が集まり共に考える機会となった。	
評価	A	令和7年度のいこま教育フォーラムは、1回目は芦屋市と、2回目は不登校当事者が集まる団体と協力して開催したことで、より多くの関係者に自分事として参加を促すことができ、共に学び考える場として例年以上に効果的にフォーラムが機能することができた。
担当課	教育政策室	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	幅広い世代への学ぶ機会の提供と地域の人材活用	
事業の概要	「IKOMAサマーセミナー」など、様々な特技や専門知識等を持った市民自身が先生となって、市民への学びや体験の場を提供するとともに、市民が活躍する機会とする。 また、このような場づくりを市民が主体となって継続的に取り組み、さらに発展していけるよう支援することで、生駒の誇る「市民力」をさらに引き出し、市民の持つスキルやアイデアをまちづくりに活かせるようにする。	
目標	目標名	目標値
	サマーセミナーに参加した「先生」の実人数(累計)	200人
取組設定	・市民主体の実行委員会による開催・運営	
実績・成果	R 7. 8. 3 1 (日) たけまるホール 講座数 48 講座 (うち休講 1) 参加先生数 72 人 (累計 226 人) のべ受講者数 898 人	
評価	A	先生の実人数(累計)は226人となり、無事目標値を達成することができた。 アイデアを持ち寄っての特別講座や VTuber コーナーの設置など興味を引く学びや体験の場を作り、のべ受講者数前年度比71%増を達成、皆勤賞も2倍以上の74人となるなど、密度の濃いセミナーとなった。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	高齢者教育推進事業	
事業の概要	人生100年時代にあって、第2・第3の人生をより充実して過ごせるよう、学びと交流の場への参加を通して個々の知識教養の充実を図るとともに、学びで得た知識や経験を地域活動への参加等まちづくりにつなげるほか、安心して心豊かなセカンドライフを支援する取組を進める。 ・いこま寿大学の運営 62歳以上の市民を対象に、様々な学習活動を通して「健康づくり」「生きがいづくり」「仲間づくり」をしながら、「まちづくり」でも活躍できることを目指して学ぶ。 ・セカンドライフ充実支援 講演を通して豊かなセカンドライフのための意識づけを行うとともに、個別のテーマによる実践講座により具体的なプラン作成や行動につなげられるよう支援する。	
目標	目標名	目標値
	セカンドライフ充実支援講座の受講者数(累計)	900人
取組設定	・いこま寿大学の運営 ・セカンドライフ講演会の実施 ・セカンドライフ実践講座の実施	
実績・成果	・「いこま寿大学」について、学習期間(2年または4年)の選択や再入学を可能とした制度での運営 ・一般教養学習会のなかで地域共生社会の実現に向けた講演会を実施。 ・豊かなセカンドライフの実現に向けた講座の開催 実践講座 4回 参加者数：計55人 講演会の開催 2回 参加者数：計141人 累計934人	
評価	A	寿大学については、予定通りの学習活動を行うことができ、学生に対して充実した学びを提供した。 学生の高年齢化や学生数が年々減少していることに伴い、クラブ学習の活動が縮小傾向にある。今後、学びの種類や大学のあり方については検討が必要である。 セカンドライフに関しては、実施回数は昨年度より増やし、満足度も高かった。年度末に開催した「未来へつなぐ、私のエンディングノート書き方講座」でも定員を超える申込があり、豊かなセカンドライフを過ごすために意欲的に受講される姿が見られるなど内容は充実していた。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	学びと活躍推進事業	
事業の概要	主に働き盛り世代を対象に、人生の選択肢を増やし、ウェルビーイング(身体的・精神的・社会的に良好な状態)に生きるための知恵・スキル・つながり等を育む学びの場「ischool」を展開する。ischoolでは、社会や地域課題、市民ニーズを踏まえた多様なテーマの講座を、市民協働や他課との連携により企画・運営する。	
目標	目標名	目標値
	アンケートで「今後の暮らしで活かしたいことがあった」と回答した人の割合	70%
取組設定	・市民協働や他課との連携による講座の開催 ・学びのポータルサイトの運用	
実績・成果	・未来ひろがる学びの場「ischool」 学びと交流の社会見学「まちミル」 開催回数：3回 参加者数：110人 「ミライの教室」 開催回数：7回 参加者数：172人 「ischool for kids」スキをつづけていいんだよ。 開催回数：7回（7日間） 参加者数：114人 - 文部科学省「リカレント教育エコシステム構築支援授業」 （奈良国立大学機構） 開催回数：8回（8日間） 参加者数：115人 ・「学びのポータルサイト」の運営 年度中のページビュー数：176,105	
評価	A	ischoolでは、子育て世代のニーズに沿って多様な講座を市民と連携して企画、実施した。 各講座において、より参加者の興味関心や学びのニーズに沿った内容になるよう、昨今の情勢を含め検討を行った。特にこどもたちが地域の中で体験を通して学び、探求心や創造力といった「学びたい」気持ちを育むきっかけとすることを目的に「ischool for kids」夏休み特別講座を4日間開催（1日は延期）し、参加者からは満足度の高い講座になっただけでなく、地域のことを知る社会教育に繋がった。 「リカレント教育エコシステム構築支援授業」では奈良国立大学機構と共催で、電車と食の健康をテーマに各4回実施し、いずれも参加者の満足度は高いものであった。 「学びのポータルサイト」では様々な情報を発信することで、多くの関心を集めることができ、年々認知度が上がってきており、ページビュー数は前年度比の3倍弱となった。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	歴史・伝統文化の学びの場の提供と発信	
事業の概要	伝統文化に親しむ機会の拡充や継承を進めるほか、郷土学習の拠点である生駒ふるさとミュージアムの事業（特別展示や、市史編さん事業に携わる専門家等と連携して実施する講座、小学校向け出前授業等）を通して本市の歴史文化を発信し、市民の郷土愛を高める。	
目標	目標名	目標値
	生駒ふるさとミュージアムの年度来館者数（館外事業参加者を含む）	9,000 人
取組設定	・市内小学校を対象とした、高山竹林園での茶道体験補助事業の実施 ・ふるさとミュージアムにおける講座、特別展・企画展、出前授業等の開催	
実績・成果	・高山竹林園での茶筌製作実演や茶道体験の学習支援 参加校数：7校 参加者数：計574人 ・生駒ふるさとミュージアムの来館者数（年間）：7,289人 ・小学校への出前授業実施校数：5校 参加者数508人	
評価	A	・高山竹林園、生駒市茶道協会との連携により、市内小学校児童が茶筌や茶道に触れる機会を提供した。 ・ふるさとミュージアムにおいては、本市の文化財や歴史にふれる展示や講座、講演会等を開催したほか、小学生を対象に昔のくらしやまちの移り変わりなどをテーマとした出前授業にも力を入れるなど、幅広い世代に本市の歴史文化を伝えることで、郷土愛の醸成につなげた。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	「音楽のまち生駒」推進事業	
事業の概要	公募提案型の「市民みんなで創る音楽祭」や市民吹奏楽団を中心とした吹奏楽事業等により、市民との協働で「音楽のまち生駒」を推進し、音楽文化の担い手の拡大や、文化芸術を通じた本市の魅力向上を図る。	
目標	目標名	目標値
	市主催音楽事業の来場者数	7,700人
取組設定	・「市民みんなで創る音楽祭」の開催 ・リベラルコンサートの開催 ・市民吹奏楽団事業の開催 ・ライオンズコンサートの共催	
実績・成果	・「市民みんなで創る音楽祭」 提案団体12団体 実施団体 6団体・記念式典・特別公演 1公演 来場者数 3,150人 出前授業3校 参加者 919人 ・「第72回リベラルコンサート」(11月16日開催) 来場者数 700人 ・市民吹奏楽団事業 ・「いこすいフェスタ 2025」(6月22日開催) 来場者数 650人 ・「0才から楽しめるファミリーコンサート」(10月5日開催、2回公演) 来場者数 1,250人 ・「いこま吹奏楽の日」(3月1日開催) 来場者数 2,000人 ・「第31回ライオンズコンサート」(2月21日開催) 来場者数 700人	
評価	A	・「市民みんなで創る音楽祭」は新しく創設した募集枠である「自主事業枠」2公演を含む6公演を行い、10周年を記念した記念式典・特別公演1公演行った。(計7公演)市内外の観覧者に良質の音楽を届けた。また、市内小中学校へのアウトリーチ公演は実施校数や参加者数も増え、子どもへの音楽教育の充実にも貢献した。 ・吹奏楽事業を含め、いずれの事業も多数の来場者(計8,450人)に恵まれ、「音楽のまち生駒」を市内外に発信した。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	市民との連携や「協創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり	
事業の概要	市民との連携や「協創」のもと、人と本、人と人をつなぐ事業を行い、新たな文化を創造するまちづくりの拠点となる図書館を目指す。市民と協働しイベントや図書館事業を実施するほか、まちかど図書室等、市民から市民へ読書啓発を行う団体を増やし、その活動をサポートする。	
目標	目標名	目標値
	団体貸出登録数	170団体
取組設定	・本棚のWA、未在亭 ・まちかど図書室 ・図書館児童サービスの周知	
実績・成果	本棚のWA4回開催116人参加、未在亭3回開催93人参加、まちかど図書室53ヶ所となった。各館・室において、独自のネットワークを形成し、市民との協働により、多様なテーマやアイデアを出し合って、多くの市民に図書館を理解してもらい、読書推進に寄与した。	
評価	A	団体貸出登録数は175団体となり、様々な団体と協力し、読書推進を行うことができた。
担当課	図書館	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	地域スポーツ推進事業	
事業の概要	・多くの市民が参加しやすいスポーツイベントとして「いこまスポーツの日」を開催し、スポーツを始めるきっかけとすることや、市内総合型地域スポーツクラブやスポーツ施設指定管理者の事業を紹介することで、市民の継続的なスポーツ活動に繋げる。また、子どもから高齢者、障がい者などあらゆる市民が気軽に参加できる「スポパ+（プラス）」を開催する。 ・障がいの種別や程度に関らず「やりたい」「やってみよう」という思いを持ち、スポーツに親しみ楽しむことができるよう、スポーツ施設の開放事業や障がい児を対象とした体づくり運動プログラム「できるがみえる」を実施する。 ・スポーツに夢や憧れを抱けるように、メダリストやトップアスリートを招き、スポーツ教室や講演会を開催し、有名スポーツ選手と触れ合う機会をつくる。	
目標	目標名	目標値
	各種事業の開催	12回
取組設定	・いこまスポーツの日やスポパ+の開催（2回） ・障がい（児）者のためのスポーツ施設開放事業の開催（4回） ・障がい児のための体づくり運動プログラムの実施（4回） ・メダリストやトップアスリートを招聘しスポーツ教室や講演会の実施（2回）	
実績・成果	・スポーツを始めるきっかけやスポーツに親しんでもらえる1日とするため「生駒スポーツの日」（令和8年3月20日）を開催 参加者数：902人（アスリート連携事業の一部を含む） ・子どもから高齢者、障がい者などあらゆる市民が気軽に参加できる「スポパ+（プラス）」（令和7年10月25日）を開催 参加者数：112人 ・障がい（児）者のためのスポーツ施設開放事業：4回開催 ・学校生活で頻度の高い“跳ねる”“投げる”“蹴る”の3つの動きを、作業療法士、理学療法士、スポーツ指導者により小集団で実施する障がい児用運動プログラム：4回開催 ・花園近鉄ライナーズによるラグビー体験（18人）や、浅香山部屋によるちびっこ相撲体験会（25人）の実施	
評価	A	「いこまスポーツの日」の開催にあたり、市スポーツ施設指定管理者や市内総合型地域スポーツクラブ等と連携したことで、バルセロナアカデミー奈良校によるサッカー教室や、リレーマラソン、eスポーツ体験会、芝生でピラティスの開催などを実施し、多くの市民の参加を促した。 また、全市民を対象として体育館及びグラウンドを開放し、性別、年齢、体力、障がいの有無に関わらずスポーツを行うことができるイベント「スポーツパーク+（プラス）」を開催した。
担当課	スポーツ振興課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	新たな地域クラブ活動推進事業	
事業の概要	学校部活動の地域移行を見据えた「新たな地域クラブ」を拡充するため、引き続き「新たな地域クラブ活動推進協議会」の運営とコーディネーターを配置するとともに、学校関係部局や中学校等との連携を図る。また、新たな地域クラブ活動の推進に合わせ、学校体育施設開放事業における運用ルールの見直しや有料化等の検討を行う。	
目標	奈良県が掲げている「令和8年度から休日における教員の指導による学校部活動の廃止」に向け、新たな地域クラブの拡充のため、実施主体の組織体制の強化などの環境整備を図る。	
取組設定	・推進協議会の運営 ・コーディネーターの配置 ・新たな地域クラブ拡充 ・学校体育施設開放事業新運用ルールの決定	
実績・成果	・新たな地域クラブ活動推進協議会を2回開催 ・コーディネーターを引き続き配置 ・新たな地域クラブ活動を17クラブ実施 ・学校体育施設開放事業運用ルールの見直し	
評価	A	令和8年度からの学校部活動の休日分の全面移行を見据え、新たな地域クラブ数を7クラブから17クラブへと大幅に拡充するとともに、運営団体の体制強化を支援した。 さらに、生活困窮世帯への助成金制度を構築し、希望する全ての生徒が、スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保した。 また、これまで学校ごとに異なっていた学校体育施設開放事業のルールを条例で一元化し、スマートロックの導入などデジタル化を進めることで、教員の管理業務の抜本的な削減を実現した。
担当課	スポーツ振興課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
【教育政策室】 いこま教育フォーラムの内容を、参加していない者にも広く知らせ、生駒市全体で取り組んでいる状況を作っていく必要がある。	学校への平時の訪問や研修機会を通じて、生駒市が今取り組んでいることを日常的・草の根的に共有していく。
【生涯学習課】 学びを通じてつながり、支えあう地域づくりの実現のため、あらゆる世代へ学ぶ機会や交流の場を創出しているが、「いこま寿大学」入学者数が減少している状況から学びのニーズが変化してきていると考えられる。 また「働き盛り世代」については日々の生活が多忙で自身の学びの時間の確保の優先順位が低い傾向にある。	「いこま寿大学」については、60歳を過ぎても現役で働く人口が増加している中、学びのニーズの変化をとらえ、仕組みや内容を変更していく必要がある。 また、「ischool」では多様な世代を対象とした魅力ある講座の実施を他部署との連携も含めて進めていく。
【図書館】 図書館とともに読書推進を担ってくれる団体や個人が増え、裾野が広がってきている。今後も、様々な側面から活動内容を深めるとともに、より多くの市民と活動を行っていく。	図書館と協働して活動してくれる団体のメンバーを増やすことや、団体そのものを増やす。
【スポーツ振興課】 学校部活動の地域移行や地域展開については、国の実証事業を受託し、市スポーツ協会や市内総合型地域スポーツクラブ等の実施主体と連携し取り組みを進めているが、今後は国や県が目標として掲げている令和8年度までの地域移行を目指し、関係団体等との調整を図りながら更に進めていく必要がある。	休日の学校部活動の地域移行を見据え、将来にわたりスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保するため、教育委員会内の学校支援課、スポーツ振興課、学校現場の三者で必要な連携を図り、生徒や児童にとって持続可能で多様な環境を構築する。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

< 参考データ >

いこま寿大学の在籍者数等

(単位：クラブ、人)

	クラブ数	在籍者数	入学者数	定員	応募者数	卒業者数
令和4年度	16	355	73(※)	275	71	96
令和5年度	13	363	159	215	161	101
令和6年度	12	329	116	191	122	118
令和7年度	11	266	84	166	89	101

生駒ふるさとミュージアム来館者数

(単位：人、件)

	大人	子ども	合計	多目的室利用件数・人数	
令和4年度	5,217	2,401	7,618	306	5,153
令和5年度	5,151	1,957	7,108	249	5,488
令和6年度	5,155	2,357	7,512	235	4,871
令和7年度	4,622	1,995	6,617	156	2,897

文化芸術事業の開催状況

(単位：回、人)

	種 別	令和7年度		令和6年度	
		延べ回数	参加者数	延べ回数	参加者数
市主催事業	市民文化祭等	17	11,064	18	12,161
文化芸術団体補助事業	コンサート等	3	1,320	3	1,300
指定管理者自主事業	コンサート等	66	11,576	61	10,082
	講 座	388	15,522	357	13,968
合 計		474	39,482	406	439

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 市民同士がゆるやかにつながり、学び、支え合える基盤づくり

【アクションプラン掲載事業】

事業名	放課後子ども教室の運営	
事業の概要	地域学校協働活動として放課後や長期休業中等において、こどもたちが安心・安全に過ごし、多様な体験・活動ができる居場所をつくる。	
目標	目標名	目標値
	放課後子ども教室設置数	12校
取組設定	・放課後子ども教室の設置運営	
実績・成果	9校で放課後子ども教室を設置。放課後の子どもの居場所として開催。のべ参加人数5,727人。開催回数170回	
評価	A	放課後の子どもの多様な体験・活動の場をつくった。
担当課	学校支援課	

事業名	コミュニティ・スクールの推進	
事業の概要	学校と地域住民等が力を合わせて子どもたちの成長を育むため、地域住民等が学校運営に取り組むことが可能となる学校運営協議会を各小・中学校に設置し、地域とともにある、地域に開かれた学校を推進する。地域の現実に即した当事者能力を子どもたちに育むため、学校運営協議会によるカリキュラムの提案を積極的に汲み上げるようにする。	
目標	目標名	目標値
	学校運営協議会の開催回数	57回
取組設定	・学校運営協議会の開催	
実績・成果	学校運営協議会を市内全小中学校に設置し、各学校で地域とともに学校運営に関する協議を行った。 /学校運営協議会設置校数:19校、学校運営協議会の開催回数:53回	
評価	A	・市内全小中学校に学校運営協議会を設置し、地域学校協働活動を推進している。 ・コミュニティ・スクール連絡協議会を開催し、1校の取組発表と講演会を行った。
担当課	学校支援課・教育総務課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	幼稚園コミュニティ・スクールの充実	
事業の概要	市立幼稚園コミュニティ・スクールにおいて、園と保護者、地域コミュニティが連携してこどものための取組を進める。なばた幼稚園・俵口幼稚園・あすか野幼稚園に学校運営協議会を設置しているが、園児数の減少が著しい桜ヶ丘幼稚園においても、園児数やニーズに応じて、設置を検討する。	
目標	目標名	目標値
	学校運営協議会設置園数	4園
取組設定	・桜ヶ丘幼稚園での学校運営協議会設置検討	
実績・成果	幼稚園再編に係る基本方針を策定したことにより、幼稚園コミュニティ・スクールについては、現状維持とした。	
評価	A	現在設置している3園においては園、地域、保護者等の協働により、多様な学びにつなげることができている。一方、今後は幼稚園再編を進めていくことから、幼稚園コミュニティ・スクールの新規設置は行わない予定である。
担当課	幼保こども園課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	高齢者の学びを「行動」につなげられる仕組みづくり	
事業の概要	寿大学で学んだ高齢者が自身の学びの成果やこれまでの人生経験を生かしてまちづくりの担い手として活躍する機会を増やしていきけるよう支援を行う。 具体的には、「寿生駒連絡協議会」(気らくネット)が市内の学校内の菜園や花壇整備を行ったり、オリジナルの紙芝居を学校や地域の老人会等で披露するなどの社会貢献活動を市内各所で展開しているが、これらの活動と学校や地域団体等とのコーディネートを進めることで、連携の拡大や新たな取組の実施につなげる。	
目標	目標名	目標値
	気らくネットによる取組の新規実施数	1件
取組設定	・気らくネットによる地域での社会貢献活動の支援	
実績・成果	・紙芝居クラブ…自治会・小学校等での公演 ・菜園クラブ…壱分小学校や生駒小学校、桜ヶ丘小学校の花壇・菜園づくり ・フードドライブクラブ…家庭内の余剰や賞味期限の近い食品の提供	
評価	A	紙芝居クラブや菜園クラブ、フードドライブクラブは年間を通して活動し、継続的に社会貢献に繋がる活動を実施している。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	家庭・学校・地域が連携した家庭教育の支援	
事業の概要	子育ての不安解消や地域でのつながりづくりなどを目的に、地域で子育て支援等に関わる市民との協働により立ち上げた生駒市家庭教育支援チーム「たけのこ」を中心に、学校園などとの連携のもと親子や保護者を対象とした交流事業や家庭教育に関する情報発信などに取り組む。	
目標	目標名	目標値
	「たけのこ」によるイベント等取組実施数	6件
取組設定	・地域や学校園と連携した交流行事「たけのこ ふれ愛」イベントの開催 ・家庭教育支援チームに関する啓発 ・市 HP での情報発信	
実績・成果	・家庭教育の推進を目的に、交流イベントを9回開催した。 生駒小5/15,9/18,2/12,2/17、白百合幼 7/1、俵小 9/25、生駒幼 1/28、南コミ 3/8、ピュア保育園 3/9 ・研修会を実施 先進地視察研修4回（天理市、橿原市） ・たけのこ通信を9回発行した ・俵小フェスタ、南二小、ふれあいハートフェスタでのチーム活動の啓発物品配布等啓発活動 計18件	
評価	A	チームの取組みが広く周知されてきた結果、学校園からイベントの依頼を受けることが増え、目標値を上回る実績を残すことができた。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	「人を通して本を知る」「本を通して人を知る」をキャッチフレーズとするビブリオバトル全国大会の開催	
事業の概要	年齢や地域の枠を超えたビブリオバトルの全国大会を開催し、市民の読書推進とともに、本を通して繋がる全国的なネットワークを作り出す。	
目標	目標名	目標値
	ビブリオバトル全国大会の参加者数	300人
取組設定	・ビブリオバトル全国大会inいこまを開催	
実績・成果	予選会5回開催延べ159人、決勝377人（発表者、観戦者）。定例会10回開催延べ165人参加。定例会は、ケーブルカー等場所を変えたり、ボードゲームをするなど参加者が楽しめる仕掛けを多く設けた。	
評価	A	全国大会には作家の直木賞作家の伊与原新氏を招聘し、市内外から多くの参加があった。
担当課	図書館	

事業名	こども読書活動における家庭・地域・学校の連携	
事業の概要	家庭、地域、学校から様々な人が集まり、こどもの読書活動推進に関する情報共有を行い、学び合ったことを、それぞれの団体や地域へ持ち帰り、課題解決や活動の充実を図る。	
目標	目標名	目標値
	トライ！生駒子ども読書会議の開催回数	3回
取組設定	・「トライ！生駒子ども読書会議」の開催 第1回目：外部講師による講演会 第2・3回目：事例発表、ワークショップ	
実績・成果	3回開催し、延べ172人の参加。「家読にトライ！スマホ時間を読書時間に置きかえよう」という目標のもと、トークセッションも行った。	
評価	A	A Iについても参加者で語り合う機会を設け、参加者の意見交換、学びの場となった。
担当課	図書館	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	
事業の概要	誰もが身近な地域で気軽にスポーツ活動が行えるよう、市内の総合型地域スポーツクラブの活動を支援する。また、学校部活動の地域移行を見据えた「新たな地域クラブ活動」の実施団体として、学校等との連携支援を行うなど体制強化に向けたクラブ支援を行う。	
目標	目標名	目標値
	市内クラブの会員数	1,100 人
取組設定	・各クラブに対する活動支援 ・新たな地域クラブ活動実施団体としての体制強化支援	
実績・成果	広報掲載、チラシ配布等による各クラブの周知啓発活動支援 ・生駒市総合型地域スポーツクラブ連携会議の開催(2回) ・会員数:1,126人	
評価	A	各クラブが実施する事業等についての周知啓発や、各クラブ間の情報交換を行うことにより、会員数の増加や各クラブの組織体制の強化に繋がった。 また、学校部活動の地域移行に伴う国の実証事業を受託するとともに、新たな地域クラブ活動の推進を見据え、市内総合型クラブが実施主体となる仕組みづくりを行った。
担当課	スポーツ振興課	

【その他事業】

事業名	スポーツ推進審議会の開催、スポーツ推進委員の運営	
事業の概要	審議会を通じて専門家や市民から市のスポーツ施策に関する意見を聴くとともに、地域住民であるスポーツ推進委員と協働してスポーツの普及を図る。	
実績・成果	スポーツ推進審議会 開催回数:3回 スポーツ推進委員 会議:2回、研修会等:9回、実技指導:9回 その他地域での実技指導	
評価	A	スポーツ推進審議会では、総合公園体育施設リニューアル事業基本計画の策定において意見を求め、計画への反映を検討した。 スポーツ推進委員では、いこまスポーツの日や各種障がい者スポーツ支援事業等での実技指導により、更なる地域スポーツ推進を支援した。
担当課	スポーツ振興課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
【幼保こども園課】 幼稚園再編を進めていく中で、地域とのつながりはより一層大事になる。	幼稚園コミュニティ・スクールのない園においても、地域の方が様々な形で園と協働活動を行っている。その情報発信はしっかりと行っていく。
【スポーツ振興課】 様々なスポーツ事業を実施することができ、市民がスポーツに夢や憧れを抱ける機会やスポーツを始めるきっかけ、スポーツに親しんでもらえる機会を創出することができた。特に、障がい児用運動プログラムをはじめとする障がい者対象事業は多くの参加者から高評価をいただいているため、今後は継続してスポーツにふれあっていただける環境とするため、関係団体との更なる連携や地域の協力が必要と感じている。	「第2期生駒市スポーツ推進計画」に掲げる「スポーツがつむぐ いこまの“わ”～“笑顔”と“元気”で1. 2. 3. ～の実現に向け市民ニーズや参加者等の意見を取り入れながら引き続き取り組みを推進する。
【生涯学習課】 これまでの「たけのこ」メンバーの周知活動の結果、認知度が上がり、取り組み実績値は向上したが、同場所での開催や参加者の重複も見られた。	今まで実施実績のない学校や幼稚園への声掛けを行い、「たけのこ」の周知と保護者支援のイベントを広げていく。学校や幼稚園だけではなく生涯学習施設を会場に誰でも参加できる場を作り、活動の幅を広げる。
【図書館】 トライ！生駒こども読書会議については、本の紹介や内容を知る講座を開催したことがない。	児童文学に関わる作家や編集者などを招いた講座を開催し、本や文学を知る機会を提供する。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

< 参考データ >

図書館蔵書冊数等

(単位：冊、人)

	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度
蔵書冊数	658,390	649,939	651,459	646,210
貸出冊数	1,052,695	1,102,051	1,148,729	1,195,065
貸出人数	322,904	330,494	341,771	352,645
利用券登録者数	45,468	44,412	41,302	44,357

スポーツ、レクリエーション活動の実績

(単位：人)

事業名	令和7年度	令和6年度	事業名	令和7年度	令和6年度
市民スポーツ大会	4,725	5,034	体育館無料開放	1,091	1,277
IKOMA マラソンチャン ピオンシップ	311	295	学校体育施設開放	2,677	2,786
スポーツ教室	3,969	4,005	生駒ふれあい市民マラソン	中止	中止
			いこま自転車つーり んぐ	31	61

社会体育施設の利用実績

(単位：人)

施設名	令和7年度	令和6年度	施設名	令和7年度	令和6年度
生駒北スポーツセンター	116,880	129,971	滝寺公園	154,598	151,522
イモ山公園	47,250	51,977	むかいやま公園	34,854	38,127
北大和	96,461	81,825	小平尾南	31,775	33,440
総合公園	135,184	136,953	井出山	169,840	178,383
山麓テニス	21,428	22,877	合 計	808,268	825,075

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針3 多様な学びを支える環境づくりのために

1 「楽しい学校園づくり」のための学校園運営体制の整備

【アクションプラン掲載事業】

事業名	教職員のウェルビーイングを実現する働き方改革	
事業の概要	教職員が健康でいきいきとやりがいをもって働ける環境整備を行い、教職員が授業や教材研究等に集中し、ゆとりをもって教育活動に取り組める時間の拡充を図る。	
目標	目標名	目標値
	月80時間超の時間外労働者数	30人
取組設定	・スクールサポートスタッフの全校配置 ・部活動の段階的な地域移行 ・働き方改革に取り組むプロジェクトチームの設置 ・教職員の業務改善についての各種調査及び整理	
実績・成果	・スクールサポートスタッフを全校に配置した。 ・教職員の勤務時間の適正化に向け、生駒市教職員・職員勤務時間適正化会議及び生駒市教職員勤務時間適正化ワーキンググループを設置・開催した。 ・適正化会議及びワーキンググループにて議論・検討を行い、「市内統一での留守番電話設定時刻の見直し及び保護者向け周知・HP掲載・すぐる配信の実施」「自動通話録音装置の予算化」「春期休業期間見直し(1日遅らせることで年度初めの準備にゆとりを持たせる)」等、働き方改革に関する具体的な取組が進んだ。	
評価	A	・スクールサポートスタッフを配置することで、教職員が教育活動により取り組むことができた。 ・月80時間超の時間外労働者数については、43人だったが、勤務時間の適正化会議及び勤務時間の適正化ワーキンググループの実施により、働き方改革を推進するための具体的施策を複数実施し、また継続的な働き方改革に向けた組織的な検討体制の整備に着手することができた。
担当課	教育総務課・学校支援課・教育政策室	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	学校屋内運動場空調設備整備事業	
事業の概要	各学校の屋内運動場には、防災物品として大型冷風扇を整備しており、災害時以外も活用し熱中症対策を行っている。 しかし、近年の夏期の気温上昇によって屋内運動場での活動による熱中症リスクが上がっていることから、屋内運動場に空調設備を整備してリスク軽減を図る。また、避難所として使用することとなった場合でも、空調設備が整っていることによって避難者の体調管理に資することができるようにする。	
目標	学校施設における熱中症予防のための空調設備について完了させる。	
取組設定	・工事（小学校10校、中学校6校、小中学校1校）	
実績・成果	令和7年2月に中学校分、令和7年5月に小学校分の入札を執行し、予定通り令和7年度中に対象校への空調設備の設置が完了した。	
評価	S	対象校については、令和7年度末までに設置を完了することで、主体的に学べる教育環境づくりを進めることができた。
担当課	教育総務課	

事業名	先進校視察支援事業	
事業の概要	ミドルリーダー層以上の教員及び教育委員会事務局の指導主事が自分自身の教育観や授業観のアップデートに充てる時間を確保するために、教育委員会事務局主導で先進校視察を行う。	
目標	目標名	目標値
	視察参加人数	45人
取組設定	・先進校視察実施	
実績・成果	不登校支援や新しい授業づくり、生駒南小中学校整備事業、ユネスコスクール及びイエナプランに関する事業の推進、検討に資する先進地視察を企画し、延べ58人が視察を行った。	
評価	A	実施する事業の目的に応じて、教育委員会事務局だけではなく教員や市長部局職員と共に視察を行った。それにより、視点を一斉に共有でき、効果的に事業を進める体制を整えることができた。
担当課	学校支援課・教育政策室	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	講師不足対策	
事業の概要	ポスターを商業施設等に掲示して広く周知を図ることで、教員免許等を有する人材に「いこま教育・保育資格バンク」への登録を促す。また、「いこま教師塾」により講師希望者に研修を実施し、市内学校への勤務がスムーズに行えるように支援する。それらにより、定数内講師の不足の解消及び今後予想される講師不足の対策を行う。	
目標	目標名	目標値
	毎年度2月時点の講師不足数	0人
取組設定	・いこま教育・保育資格バンク ・いこま教師塾	
実績・成果	(いこま教育・保育資格バンクの設置) 昨年度から引き続き、教員免許や保育士資格を有する人材の発掘・登録を促進するため、市内の商業施設等でポスターを掲示し、広く周知を図った。その結果、令和7年度内に152名が新たに登録した。昨年度までの登録を含め累計で、のべ382名の方に登録いただいた。 (いこま教師塾の実施) 講師希望者を対象とした研修として「いこま教師塾」を計2回開催し、計19名(のべ28名)の参加があった。学校現場への不安を払拭しながら、実践的な指導力の向上を支援し、令和8年度の就労に繋げた。 令和7年度の2月(令和8年2月)時点での講師不足は3名であった。	
評価	A	全国的に講師不足が深刻化する中、令和7年度は「いこま教育・保育資格バンク」の活用と「いこま教師塾」の実施を通じて、地域に眠る有資格者を教育・保育現場へつなぐ仕組みを継続的に運用した。令和7年度の2月(令和8年2月)時点での講師不足は3名であり、目標値(0名)には至らなかったものの、いこま教育保育資格バンクの周知による講師登録者の拡充・いこま教師塾の実施等、講師確保に向けた取組を計画的に実施し、年度途中に発生した教員の欠員を多数配置でき、不足数を改善できたことから、取組の進捗状況を評価しAとした。
担当課	教育総務課・教育政策室	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	「教頭の業務の再定義」を核とした学校の業務改善と教師の働き方改革施策	
事業の概要	授業改善を始めとする教育活動の改善に向けて、教職員の組織的な働き方改革を推進する。特に、学校運営の核であり、近年時間外労働が増大している教頭職の業務を再定義し、働き方改革を推進させる。 モデル校となる学校を小中学校からそれぞれ選定し、モデル校の教頭らにコンサルタントからの研修や助言の機会を提供し、伴走型支援をする。また、教頭をリーダーシップとする組織開発の実践の効果を、組織変革プロセスを用いた学校組織診断によって評価・測定し、継続的な改善を図る。	
目標	目標名	目標値
	月80時間超の時間外労働者数	30人
取組設定	・令和6年度実施の研修及びコンサルティング内容の市内小中学校への展開 ・組織変革プロセス指標を用いた学校組織診断の実施(4校×2回) ・保護者宛文書等の一体的なデジタル化推進 ・教頭の働き方改革PTの発足	
実績・成果	年度途中に採用した、専門的な知見を有し、教育改革に特化して取り組む会計年度任用職員を中心に、勤務時間適正化会議及び勤務時間適正化会議ワーキンググループを立ち上げた。適正化会議は5回、ワーキンググループは3回開催し、学校で抱えている課題や取り組みの共有、課題解決のための施策の検討を行い、始業式までの準備期間確保のための春期休業期間の見直しや、電話対応時間の統一、学校へ発出される通知文等の精選を行った。 また、組織変革プロセスを用いた学校組織診断を教育委員会事務局と桜ヶ丘小学校で実施し、客観的な指標を用いて、組織の現状を把握し、所属教職員同士で対話を実施した。	
評価	A	学校現場で課題となっているが、学校だけでは解決できない課題について、教育委員会事務局と学校が共有し、連携して解決に取り組む体制を整えることができた。
担当課	教育政策室	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業名	市立幼稚園における預かり保育の実施	
事業の概要	子育て支援の一環として、預かり保育・長時間預かり保育を実施する。	
実績・成果	市立幼稚園全園において預かり保育を実施している。8時15分から8時30分の預かり保育を実施したことにより、保護者の働き方の幅を広げ、ニーズに応えることができた。 のべ 23,906人が利用した。	
評価	A	令和7年4月より8時15分から8時30分までの預かり保育を実施。園児数の減少によりのべ利用数は減少に転じている。
担当課	幼保こども園課	

事業名	特別支援教育の充実	
事業の概要	4、5 歳児クラスに特別支援加配講師を配置する。	
実績・成果	令和7年度は24名の加配を行い、対応した。	
評価	A	一人ひとりの特性に応じてきめ細かい支援を行うことができた。
担当課	幼保こども園課	

事業名	積極的な情報公開と学校評価の実施	
事業の概要	学校評価を実施・公表し、改善点を明確にするなど、更なる学校経営の充実を図るとともに、ホームページでの情報掲載など、積極的な情報公開による開かれた学校づくりを推進する。	
実績・成果	・3校で1日学校訪問を実施した。 ・学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施した。	
評価	A	学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施し、加えてホームページやX、学校だよりで情報を公開した。
担当課	学校支援課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
【教育政策室】 教員の働き方改革を進めるためには、年度ごとではなく連続した取り組みを進めていく必要がある。また、「自分事」にしてやってみるマインドを醸成する必要がある。	引き続き勤務時間適正化会議とワーキンググループを実施していく中で、自発的に取り組める人をメンバーとして据えることで、取り組みを一丸となって進めていける体制を整える。
【幼保こども園課】 幼稚園の三期休業中の預かり保育や、預かり保育時間延長を継続できる人員確保が必要である。	これまでの取組のほか、人材確保につながる新たな取組について検討し実施する。

< 参考データ >

市立幼稚園園児数（令和 7. 5. 1 時点）（単位：人）

3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
1 4 8	1 5 6	1 5 1	4 5 5

市立保育所園児数（令和 7. 5. 1 時点）（単位：人）

0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
2 4	6 6	1 0 5	1 3 2	1 3 6	1 5 0	6 1 3

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 こどもたちの新たな学びを創出する環境整備

【アクションプラン掲載事業】

事業名	小中学校施設の計画的な大規模改修事業	
事業の概要	建設から40年程度経過し、老朽化が進んでいる小中学校の大規模改修を順次計画的に実施する。	
目標	長寿命化を図り、主体的に物事に取り組むことができ、時代の変化にも柔軟に対応できるように改修する。	
取組設定	・大規模改修工事(上中)	
実績・成果	交付金申請手続きを行うとともに、入札を執行した。	
評価	B	国の補助採択が想定より遅れたため、財源確保の見通しが立たず、スケジュールの大幅見直しが必要となった。また入札の結果、応札者なしのため不調となり、条件を見直し、新年度に改めて入札を執行する。
担当課	教育総務課	

事業名	生駒南小学校・中学校整備事業	
事業の概要	生駒南小学校・中学校は、建築から約50年が経過しており、耐震改修やトイレ改修などの一定の改修工事を行っているものの老朽化が著しい状況である。 学校施設はこどもたちが日常生活を送る場であるだけでなく、災害時の避難所となるものでもあるため、速やかに対策を行う必要がある。	
目標	主体的に物事に取り組むことができ、時代の変化にも柔軟に対応できる、新しい視点を取り入れた施設にする。	
取組設定	・基本設計及び実施設計 ・(仮)準備会	
実績・成果	・基本設計の策定 ・実施設計に向けた検討 ・「共創スタジオ」による関係者との対話のワークショップ(計11回)の実施 基本計画を踏まえ、設計事業者と連携しながら基本設計を進めた。また、教職員、保護者、こども、地域住民等との対話を重ね、教育内容と施設整備を一体的に検討した。	
評価	A	基本計画を踏まえ、基本設計を進めるとともに、学校関係者や地域住民等の意見を取り入れながら、新しい義務教育学校の施設整備の具体化を図った。「共創スタジオ」を通じて、教職員、保護者、子ども、地域住民等が参画する機会を設けることで、施設整備に対する理解を深めるとともに、教育内容と施設計画を一体的に検討する基盤を整えることができた。
担当課	教育総務課・教育政策室	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	これからの時代の学校図書館のあり方創造事業	
事業の概要	デジタル化が加速する社会の中で、一人一台端末導入による調べ学習の変化や、新学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」の授業改善による児童生徒の探究学習にあたり、学校図書館の新しいあり方を模索し、生駒市モデルを創造していく。 学校図書館は、文科省の学校図書館ガイドラインに基づき、児童生徒の興味・関心等に応じて、自発的・主体的に読書や学習を行う場であるとともに、読書等を介して創造的な活動を行う場とするための選書や展示方法、読書スペースなどの空間づくり、イベント等を学校司書とともに考え、こどもたちが自発的・主体的に学べる環境づくりを目指す。	
目標	目標名	目標値
	実験的な取組に対する実施校の数	3校
取組設定	・学校司書先進校視察 ・学校図書室の展示・空間づくりの工夫、充実	
実績・成果	市内の学校司書を対象に、本を手にとってもらうための工夫を学ぶため、民間の書店への視察と研修を実施した。	
評価	B	実験的な取組に対する実施校数が3校に満たなかったため、評価としてはBである。しかし、学校司書の先進地視察として、自治体で取り組んでいる事例ではなく、民間の取組を学んだことで、より柔軟に図書空間を創出するための引き出しを学校司書が増やすことができた。
担当課	教育政策室	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	教育系ネットワーク更新	
事業の概要	セキュリティを担保しながら校務系ネットワークと学習系ネットワークを統合することで、アクセス場所（校内外）を問わず、安全な校務・学習システムの利用を可能とする。ネットワーク更新により、教職員の執務環境の向上を図ることで、児童・生徒と向き合う時間の創出や授業準備の時間の確保を図り、効率的かつ効果的な教育活動を可能とする。 また、ゼロトラスト型セキュリティネットワークの構築と同時に、保守・運用方針、教育委員会のセキュリティポリシー、施設開放時のネットワーク環境等も同時に見直すことにより学校現場が抱える課題の解決も図る。	
目標	令和6年度中に新しいネットワークを構築し、令和7年度から運用を行う。本事業により学校のネットワーク環境を改善することで教職員の作業効率を上げ、教育活動に充当する時間を創出する。	
取組設定	・新ネットワーク運用開始 ・新セキュリティポリシー運用開始 ・運用の適宜見直し ・統合型校務支援システムの構築・運用	
実績・成果	令和7年度から新しい教育系ネットワークの本格運用が開始した。新しい環境となったことで、適応するまでの間の一定期間は現場の負担は増加したが、保守事業者と連携し、適宜課題に対応しながら運用を行った。今回の教育系ネットワーク更新によりセキュリティが向上したことから、校務を行う場所を職員室に限定する必要がなくなり、学校現場に対して、柔軟に働くことができる環境を提供できた。 また、校務支援システムの更新も行われ、これまで学校で導入されているシステムごとに必要であった年次更新作業を、システム間連携により一括で完了できるなど、現場の負担を減らすことができた。	
評価	A	基幹システムの更新は、どのような場合でも一定の負担増はあるものの、ロケーションフリーで校務を行える環境を提供できるなど、柔軟に働くことができる環境を構築できたことは大きな成果であった。
担当課	教育総務課・学校支援課・教育政策室	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	保育料の段階的な無償化	
事業の概要	0～2 歳児のうち第 2 子の保育料を半額から無償にする(きょうだいカウント方法の見直し含む)。また、国等に対して、0～2 歳児の保育料の完全無償化に向けた要望等を行う。	
目標	多子世帯の負担軽減により少子化に歯止めをかける。	
取組設定	・第 2 子無償化実施 ・国へ保育料完全無償化に向けた要望 ・県へ第 2 子無償化に係る補助を要望	
実績・成果	令和 6 年度から、きょうだいのカウント方法を見直した上で第 2 子無償化を実施。子育て世帯の負担軽減につなげた。	
評価	A	子育て世帯の負担軽減につなげた一方、市の単独財源で実施していることから、今度も国に対して要望を続けていく予定。
担当課	幼保こども園課	

事業名	待機児童の解消に向けた取組	
事業の概要	潜在保育士の確保を目指し、「資格をいかそう！相談会」、「保育園、こども園見学ツアー」、「職場体験」を見直すとともに、大学とも連携し新卒保育士の確保を目指す。また、保育士サポート手当(新規採用の常勤保育士対象)及び保育士確保支援事業給付金(短時間保育士雇用支援、派遣保育士利用支援)を交付する。 生駒駅周辺の保育施設や分園等を整備する。	
目標	目標名	目標値
	待機児童数	0 人
取組設定	・「資格をいかそう！相談会」等実施 ・保育士確保支援事業給付金 ・保育士サポート手当	
実績・成果	・資格をいかそう相談会、見学ツアー等の取組を実施し、9 人(うち公立園保育士 3 人)の採用につながった。 ・処遇改善給付金(短時間勤務保育士)、保育士サポート手当(新規採用の非正規常勤保育士)、派遣保育士補助金等の民間園に対する補助事業を実施	
評価	B	実績・成果のとおり実施したが、令和 8 年 4 月 1 日時点の待機児童は 25 名となった。
担当課	幼保こども園課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	市立保育所の老朽化施設の更新	
事業の概要	老朽化した市立保育所施設の長寿命化や認定こども園としての更新を計画的に進める。	
目標	目標名	目標値
	更新施設数	1園
取組設定	・エアコン改修(小平尾保育園)	
実績・成果	予定どおり実施した。	
評価	A	市内保育所は鉄筋コンクリート造であることから、大規模修繕等を行うことで使用し続けることが可能であるが、設備については一定老朽化も進んでおり、引き続き修繕等を行いながら適切に維持管理に努める。
担当課	幼保こども園課	

事業名	壱分幼稚園のこども園化	
事業の概要	壱分幼稚園の認定こども園整備に関する基本計画に沿って、公私連携幼保連携型認定こども園の整備を進める。施設の設置・運営主体については、民間事業者から公募を行う。壱分幼稚園園舎は市が解体・造成し、民間事業者が新園舎を建築する。	
目標	保護者の高まるニーズや多様化する就労形態及び教育・保育のさらなる質の向上を図る。	
取組設定	・園舎解体・造成工事(市) ・新園舎建築工事(民間事業者)	
実績・成果	壱分幼稚園の園舎解体工事を実施、その後(仮称)壱分こども園の園舎新築工事が開始している。 工事の実施の際には近隣住民等に対する説明会の開催や、(仮称)壱分こども園についての壱分幼稚園児保護者に対する説明会等を開催し、併せて(仮称)壱分こども園整備事業新聞を作成し、3か月に1回地域回覧で情報発信を行っている。	
評価	A	引き続き、地域や壱分幼稚園児保護者の理解を得ながら進めていく。
担当課	幼保こども園課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	学童保育の充実	
事業の概要	増加する学童保育需要に対応するため、生駒市学童保育運営協議会が運営する学童保育所の環境整備、指導員確保などによる体制づくりに取組むとともに、新たなニーズに応えるため、民間事業者による学童保育事業を促進する。	
目標	目標名	目標値
	民間学童保育所数	8か所
取組設定	・運営協議会に対する支援 ・民間事業者に対する支援	
実績・成果	学童保育需要が増加している地域において、小学校内スペースを活用し、分散保育と分割を実施した。また、民間事業者からの新規開所の申し出を受けて新たに1ヶ所誘致（生駒中央）し、計8ヶ所の民間学童保育所を確保した。 その他、運営協議会と民間学童保育所に対し、本市から助成金を交付し、安定した体制づくり・運営に寄与した。	
評価	A	保育環境を整備したことにより、児童がよりのびのびとした空間で生活することができた。また、民間学童保育所の誘致や小学校施設の活用により、希望者全員が入所することができた。
担当課	児童総務課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
【教育総務課】 校舎等の老朽化が進んでいるため、費用面や工期について計画的に進めていく必要がある。	子どもたちの学習環境を保障しつつ、庁内での連携を図り、生駒市公共施設マネジメント推進計画や現在の進捗状況を鑑みながら今後の計画を見直していく。
【教育政策室】 ネットワークや校務支援システムは、導入で終わりではないため、常にメンテナンスをしていく必要がある。	運用保守事業者や関係課と連携を密にはかりながら、日常的なトラブル対応を円滑に実施する。
【児童総務課】 生駒市学童保育運営協議会が運営する学童保育所入所を希望する傾向が強い。	民間学童保育所への入所が増えるよう送迎支援や魅力ある保育内容など事業者と協働して取組を進める。
【幼保こども園課】 保育士不足に対して取組を続けているが、待機児童は解消されていない。一方で今後は少子化の進行による児童数の減少や（仮称）壱分こども園の開園等による定員の増も見込まれている。	引き続き保育士確保に向けた取組を行い、今後の需要をみながら、より保育の必要性の高い児童を受け入れることができるよう入所選考基準についても検討を行う。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

< 参考データ >

生駒市学童保育運営協議会・民間事業者が運営する学童保育所の在籍児童数

生駒市学童保育運営協議会 令和7年10月			民間事業者 令和7年10月		
小学校区	学童保育所	児童数	学童保育所	定員	児童数
生駒北	生駒北学童	18人	(福)晋栄福祉会 ちどりフレンズ	30人	30人
鹿ノ台	鹿ノ台1学童	89人	学研まゆみ保育園児童クラブ	36人	35人
	鹿ノ台2学童	74人	はな保育園放課後児童クラブはなっこ	18人	18人
真弓	真弓1学童	54人	(福)みやび ソフィアキッズ	12人	5人
	真弓2学童	95人	たかやまこども園放課後児童クラブ	30人	25人
あすか野	あすか野1学童	58人	(特活)三楽 東生駒放課後児童クラブ	40人	33人
	あすか野2学童	68人	(特活)三楽 生駒台放課後児童クラブ	70人	21人
	あすか野3学童	70人	(特活)三楽 生駒中央放課後児童クラブ	40人	10人
	あすか野4学童	48人	計	276人	177人
生駒台	生駒台1学童	110人			
	生駒台2学童	71人			
俵口	俵口1学童	59人			
	俵口2学童	56人			
桜ヶ丘	桜ヶ丘1学童	61人			
	桜ヶ丘2学童	64人			
	桜ヶ丘3学童	63人			
生駒	生駒1学童	91人			
	生駒2学童	100人			
	生駒3学童	100人			
生駒東	生駒東1学童	69人			
	生駒東2学童	69人			
壺分	壺分1学童	76人			
	壺分2学童	52人			
	壺分3学童	71人			
生駒南	生駒南A学童	38人			
	生駒南B学童	43人			
生駒南第二	生駒南第二学童	56人			
計	28学童	1,823人			

学校給食の実施状況

(単位：回、円)

	実施回数	給食費(月額)
小学校	1 8 5	4, 4 0 0
中学校	1 7 2	4, 8 0 0

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

3 全ての市民が安心して学び成長できるための環境整備

【アクションプラン掲載事業】

事業名	困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実	
事業の概要	子ども・若者総合相談窓口「ユースネットいこま」を拠点として、様々な困難を抱える子ども・若者が自立した社会生活を送れるよう、「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」の有効活用及び関係機関との連携のもと必要な支援を行う。 また、「重層的支援整備体制事業」等とも連携しながら、できるだけ多くの不登校・ひきこもりの当事者や家族が相談支援を受けられるようにする。	
目標	目標名	目標値
	ユースネットいこまの新規相談者数	50人
取組設定	・ユースネットいこまにおける相談支援 ・「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」の運営	
実績・成果	ユースネットいこまでの実績 相談総件数：967件 総利用者数：431人 利用者実人数：100人 新規相談者数：44人 ・居場所づくり事業 計50回 参加実人数205人 ・支援を受けて進路を決定するに至った利用者数：17人	
評価	B	継続的に相談を実施している利用者も多く、新規相談者数は目標値より若干下回ったが、重層的支援整備体制事業関係部署との連携を進めている。参加支援事業の利用で相談者の進路決定につながったケースや地域共生社会推進課が実施している居場所づくり事業の参加者数が着実に増えており、利用者のニーズに合わせた支援が広がってきている。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	図書館リニューアル事業	
事業の概要	図書館本館は昭和 62 年に開館し、39 年目を迎えている。開館当時は貸出を中心とし、より多くの資料を展示することが重要であったが、現在は市民の活動する場、まちづくりの拠点としての図書館機能が求められるようになってきている。市民の求める新しい図書館となるよう、リニューアル事業を行う。	
目標	令和 5 年度に実施したワークショップにおいて決定されたリニューアルの方向性『身近で落ち着ける空間でありながら、活動や交流ができる場とする』を実現する。	
取組設定	・リニューアル工事実施 ・旧図書館クロージングイベント	
実績・成果	クロージングの借り放題イベントでは 23 千冊貸出。工事期間中も閉架書庫へ潜入等、この時だからこそできるイベントを実施。オリジナルの家具を多く使い、生駒らしい特色のあるリニューアルを行うことができた。	
評価	A	利用者の心地よさを追求し、利用してもらえる図書館にするため、デザインやレイアウトにこだわり、かつコスト面にも配慮しながら、リニューアルの方針に沿った工事が行えた。
担当課	図書館	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	『生駒市史』編さん事業	
事業の概要	『生駒市史』編さん事業は、昭和 60 年に最終巻を発刊し終えたが、その後 30 年間に行なわれた発掘調査や古文書調査等の新たな成果が蓄積されている。加えて、生駒市を取り巻く状況は大きく変化してきており、市制 50 周年を記念して新たな「生駒市史」を編さんする意義は大きい。優れた専門性を備えた市内在住研究者や学校関係者、ボランティアの参画により「生駒市史」の編さんを行う。	
目標	まちの歩みを知ることによってまちへの愛着を醸成し、まちづくりに参画する人を増やす。	
取組設定	・ 編さん委員会開催 ・ 補充調査 ・ 生駒市史第 1 巻・史料集 2 冊発刊 ・ 記念講演会	
実績・成果	・ 『生駒市史第 1 巻』発刊 ・ 史料集 2 冊発刊 ・ 補充調査実施 ・ いこま歴史サロン 2 回開催	
評価	A	『生駒市史第 1 巻』・史料集 2 冊の編集・刊行を行った。市史はフルカラーにし、図版や地図を多用するなど、誰もが手に取りやすく、かつ文章もわかりやすいものになるようにした。 同時に、建造物、寺院史料・美術品ほか各分野の史資料調査を実施するとともに、分科会、編集会議を開催し、各分野の記述方針等の情報を共有した。またボランティアの参画による史料の収集、翻刻等の編さん作業を実施した。調査研究の成果については、ジャンル別の特論講座「いこま歴史サロン」を 2 回新規開催し 72 名の参加があった。またニューズレターの作成を通じて、事業成果の P R に努めた。
担当課	図書館	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	市史編さん収集資料活用事業「いこま歴史アーカイブ」	
事業の概要	市史編さん作業で収集した資料のうち、書籍の基礎となる貴重かつ活用可能な資料を選択し、令和7年度以降『市史』を発刊公開して以降、史料を随時公開し、活用を図る。	
目標	まちの歩みを知ることによってまちへの愛着を醸成し、市のPRにつなげる。	
取組設定	・史料の収集・撮影 ・執筆員と調整し史料の選択 ・関連課調整	
実績・成果	・史料の収集・撮影 ・主な史料の選定	
評価	A	史料の収集を行い、各分科会において選定方針を設け、アーカイブに適する史料を選定した。
担当課	図書館	

事業名	生涯学習施設整備事業	
事業の概要	誰もが安心・安全に利用できる施設にするため、老朽化が進んでいる市内生涯学習施設を適切に維持管理し、計画的に改修を進める。	
目標	市民の継続した生涯学習活動を担保し、施設利用者の安全を確保するために計画的に改修を行う。	
取組設定	・北コミュニティセンターISTA はばたき空調設備更新工事（Ⅱ期工事） ・生駒セイセイビル地下1階・3階照明器具LED化工事 ・図書会館1・2階照明器具LED等改修 ・図書会館授乳室移設工事 ・南コミ空調設計 【令和6年度補正（繰越分）】 ・生駒市生涯学習施設維持管理修繕計画策定に伴う調査業務	
実績・成果	・北コミュニティセンターISTA はばたき空調設備更新工事（Ⅱ期工事） 完了 ・生駒セイセイビル地下1階・3階照明器具LED化工事 繰越 ・図書会館1・2階照明器具LED等改修 完了 ・図書会館授乳室移設工事 完了 ・南コミ空調設計 完了 【令和6年度補正（繰越分）】 ・生駒市生涯学習施設維持管理修繕計画策定に伴う調査業務 継続	
評価	A	一部事業については、納期の遅延等で次年度へ繰越したものの、その他空調設備更新等を計画的に実施することで、市民にとって、文化・生涯学習の拠点施設を継続的に安心・安全に利用できるように施設の環境整備を行った。
担当課	スポーツ振興課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	体育施設整備事業	
事業の概要	子どもから高齢者、障がい者まで誰もが安心・安全に利用できる施設とするため、トイレの洋式化を進めるとともに、老朽化が進んでいる市内体育施設を適切に維持管理し、利用者の安心と安全を確保する。	
目標	市民の継続したスポーツ活動を担保し、施設利用者の安全を確保するために計画的に改修を行う。	
取組設定	・生駒北 S.C.トイレ改修工事 ・むかはやま体育館トイレ改修工事 ・井出山体育施設テニスコート修繕工事	
実績・成果	・生駒北 S.C.トイレ改修工事 繰越 ・むかはやま体育館トイレ改修工事 繰越 ・井出山体育施設テニスコート修繕工事 完了	
評価	B	予定していた一部の工事等を実施し、避難所となる施設の環境整備において一定の効果が得られた。しかし、一部事業において入札不落による次年度への繰越が生じ、目標達成には至らなかったため、今後は速やかに公告・入札を行い、着実な事業実施に努める。
担当課	スポーツ振興課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	総合公園体育施設リニューアル事業	
事業の概要	各スポーツ施設の整備が必要となる時期や整備内容、長寿命化を含む整備経費を明らかにし、今後の市スポーツ施設の全体的なあり方を検討するため、スポーツ施設整備等に伴う調査業務を実施した。 総合公園体育館においては、建設から41年が経過しており、当調査では劣化状況評価が他の市内体育館と比べ健全度が著しく低く、災害時の避難施設でもあることから大規模改修や大規模修繕が必要となることが判明したため、総合公園内の他のスポーツ施設及び周辺施設の整備に向け、総合公園体育施設リニューアルに係る基本構想を策定し、基本計画の策定に着手する。	
目標	スポーツ施設等の統廃合による維持管理経費などの将来負担の軽減や昨今国内で頻繁に発生している大規模災害に対応できる市内最大級の防災拠点の整備を行うとともに、ユニバーサルデザインの導入によるパラスポーツの推進を図る。	
取組設定	・総合公園体育施設リニューアルに伴う基本構想策定 ・総合公園体育施設リニューアルに伴う基本計画策定	
実績・成果	・総合公園体育施設の基本的な方向性や、市内スポーツ施設等の全体的なあり方を示す基本構想を策定した。 老朽化（築41年）が進み健全度が著しく低い既存体育館に対し、総合公園内に新たな体育館を建設する方針を打ち出した。また、市内スポーツ施設や、周辺小中学校プールの集約化等に関する検討方針を盛り込んだ。さらに、令和13年度（2031年度）に奈良県で開催予定の「第85回国民スポーツ大会・第30回全国障害者スポーツ大会」の会場地にふさわしい規模・機能の検討を行った。 ・「基本計画策定業務」の着手 基本構想に基づき、具体的な規模や事業手法を定める「基本計画策定業務」に着手した。また、計画策定に向け、必要諸室、配置計画、概算事業費等の調査・検討を進めた。 ・「基本計画（案）」のとりまとめ 概算工事費を含む基本計画（案）を策定し、市民や市議会への報告・意見募集を行った。	
評価	A	基本構想に基づき、必要諸室や配置計画、概算工事費までを可視化した『基本計画（案）』を策定した。 また、市民や市議会への報告・意見募集を完了できた。
担当課	スポーツ振興課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業名	生駒ふるさとミュージアム管理運営	
事業の概要	市の歴史文化の普及のため、生駒ふるさとミュージアムの指定管理者と連携して、適切に管理運営する。	
実績・成果	生駒ふるさとミュージアムの来館者数(年間):6,617人	
評価	A	ふるさとミュージアム指定管理者の企画による特別展示等の開催により、初めての来館者を含む多数の観覧があり、本市の歴史文化の発信とともにふるさとミュージアムの認知度を高めることができた。 また、新たに親子向け歴史講座を開催したほか、引き続き実施している「勾玉体験」にも多数の参加を得るなど、子どもだけでなく子育て世代の来館者増にもつながった。
担当課	生涯学習課	

事業名	文化芸術事業	
事業の概要	市民の文化芸術活動を活発化するため、成果発表会の場の提供や指定管理者の自主事業の実施、文化芸術団体との連携などを推進する。	
実績・成果	生涯学習施設で行われる芸術文化活動の参加者数 39,482人 市主催事業 11,064人 文化芸術団体補助事業 1,320人 指定管理者自主事業 27,098人	
評価	A	関係団体や指定管理者等と連携しながら積極的に事業実施に取り組み、新しい募集枠を創設するなど、新たな参画者を増やすことができた。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	文化財保護と歴史文化の普及	
事業の概要	市の歴史の普及を図り、郷土愛を醸成するとともに、市の貴重な文化財保護を行う。	
実績・成果	歴史文化系講座聴講者数 587人 市指定文化財 2件指定	
評価	A	生駒ふるさとミュージアムにおいて本市の文化財や歴史をテーマにした企画展や特別展、各種講座や講演会を行うほか、市内小学校への出前授業にも積極的に取り組み、幅広い世代の多くの市民に郷土の歴史文化の普及を進めることができた。
担当課	生涯学習課	

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
【生涯学習課】 文化芸術や歴史文化に関する事業では小中学校との連携を進めた結果、子どもたちの参加は大幅に増えたが、各種公演や展示の参加者の多くはシニア層が占めており、子どもから働き盛り世代にも関心を持って参加してもらえるような内容や実施手法の工夫が必要である。	引き続き魅力あるイベントの開催を通して市民が文化芸術に親しむ機会を増やすとともに、 ふるさとミュージアムでは講座参加者からヒアリングを行い、今後のテーマに反映させる等、新たな切り口で郷土の歴史を学べる講座にも取り組むことで、より幅広い世代に本市の歴史文化を発信し、郷土愛を高める取組を進める。
【図書館】 リニューアルし、新しくなった図書館の活用方法について、職員、市民とともにアイデアを出し合い運営していく必要がある。	館内のイベントスペースを活用し、より多くの人々が気軽に来られるとともに、多目的室や児童コーナー等を活用しボランティアの活動の幅を広げる。
【図書館】 市史編さん事業については、市史本編をより多くの市民に読んでいただけるような工夫が必要となる。	本編価格を比較的安価に設定し、図版や平易な文章を用いて読みやすい内容を目指すとともに、写真画像を掲載したアーカイブコンテンツの作成を進める。
【スポーツ振興課】 リニューアルの具体化に向け、多様な市民意見を反映しつつ、大規模整備を財政面に配慮し計画的に進めることが課題である。	基本計画に基づき大規模整備を着実に進め、多世代が快適に集える魅力的なスポーツ拠点の創出を目指す。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

< 参考データ >

生涯学習施設の利用者数

(単位：件、人)

	令和 7 年度		令和 6 年度	
	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数
たけまるホール	11,707	193,198	12,072	219,196
鹿ノ台ふれあいホール	3,524	42,804	3,206	41,249
生駒市図書会館	3,419	78,639	3,482	83,804
生駒市コミュニティセンター	7,158	127,634	7,144	136,924
南コミュニティセンターせせらぎ	9,702	142,182	9,129	129,834
北コミュニティセンターISTA はばたき	11,779	202,258	11,298	193,830
芸術会館美楽来	6,785	101,898	6,867	103,142
合 計	54,074	888,613	53,198	907,979

点検及び評価に関する意見

(1) 教育委員会の活動状況に対する意見

生駒市が、平成28年(2016)6月に教育行政の根本となる生駒市教育大綱を策定してから10年が経過した。この間、教育大綱の特色である、関係者や市民の協創(多様な主体が穏やかにネットワークを形成し、互いが共有できる価値や解決策を創造すること)の策定プロセスにより2回の改定を経て、今年度は第3次生駒市教育大綱の2年目となっている。

教育大綱アクションプランは、市のマニフェストや総合計画との整合性が確保されており連携を図れるよう配慮したものである。また、アクションプランの作成の過程で昨年度の進行状況の確認や見直しを図り、PDCA サイクルに基づく実効性のあるものとなっていることは評価できる。

今、不登校やいじめ、貧困など、子どもたちの抱える困難は多様化・複雑化している。また、教員不足や多忙化、デジタル化やグローバル化の遅れなどの教育課題が指摘されている。これらの課題に対して教育委員会は、教育現場への速やかな対応や会議の効率化を図るためにオンライン会議を活用し、規則の制定改廃の審議や議決を行っていることは評価できる。今後も継続的に取り組みを進めていただきたい。

定期学校訪問や施設の視察、研究発表会や学校行事の参観などを実施し、教育現場の実態を確認し、各校園がより充実した教育活動を推進できるように支援されていることは評価できる。今後も、各校園の教育活動が計画に基づき適切に運用されるよう指導管理に努めていただきたい。また、教育現場の多忙化解消に向けて教職員への聞き取りなども積極的に進めていただきたい。

二十歳のつどい、市民スポーツ大会、生駒市人権教育推進協議会の事業など市教育委員会主催行事に参加することで、市教育行政の理解を深めることができている。また、全国及び県で開催される研修会への参加に加えオンライン開催の研修会にも積極的に参加することで、国や他の市町村教育委員会の現状や課題を理解することでも

きている。個人の能力向上や教育委員の資質向上にもつながったことは評価できる。

社会教育委員、スポーツ推進審議会、子ども・子育て会議、市史編纂委員会などの教育機関との連携を深め教育課題への関心を高め、文化・歴史・スポーツ・読書などを通じて、市民一人ひとりがまちづくりや地域づくりで活躍できるように取組を進めていることは評価できる。また、総合教育会議を開催し、学びの多様化学校の設置や幼稚園の再編について市長と教育委員が協議し、生駒市全体で取り組む環境を整えたことも評価できる。

今後も、第3次生駒市教育大綱の趣旨を広く周知する機会を設定するとともに、基本理念や基本方針に込められた想いをそれぞれの事業に反映できるよう取組を進めていただきたい。

(2) 生駒市教育大綱に基づく施策・事業に対する意見

基本方針1 主体的に楽しく学ぶ人であるために

1 あらゆる世代の主体的な学びの推進

文部科学省は令和4年度より、教科指導の専門性向上と学校の働き方改革を目的として、小学校高学年での教科担任制を推進している。市内各小学校に適正な人数を配置し、高学年の教科担任制が、専門的なより良い授業が行えるようになり、児童に関わる教師が増えたことで、多様な視点で子どもたちを捉え、学習面・生活面ともに良い効果が生じたことは、評価に値する。今後も学習内容を充実させて取り組まれることを期待する。

昨今、読書離れが叫ばれる中、全小中学校に学校司書を配置し、学校司書と司書教諭が連携し、図書館環境の整備や関連イベントの開催を通じて、児童生徒の読書意欲を高めたことは、今後の子どもたちの読書活動の活発化につながり、さらなる取組に期待したい。

生駒こどもチャレンジ補助事業では、1校がロボットコンテストに、1校がプラスバ

ンドのコンテストに参加し、チームで協力することを通して、達成感を味わう機会となったことは、評価できる。さらに学校への働きかけを希望する。

部活動支援事業は、専門的な技術指導力を有する人材が不足する中、外部指導者を8校に派遣し、3,882時間実施できたことは、評価できる。また、先行して地域移行を行った部活動では、部活動指導員が地域指導者として登録され、スムーズな移行と連携が行えたことは、今後に期待が持てる。

キャリア教育推進事業においては、キャリア教育プランナーとの連携事業が9回実施され、地域とつながる多様なキャリア教育の機会が継続的に提供され、児童生徒が将来の自分の姿を思い描き、学ぶ意欲を高める取組が継続されたことは、おおいに評価できる。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善の支援では、伴走・越境型研修を年間を通して実施し、市内 67 名、市外 65 名程度の教職員が参加した。自ら学びたいという意欲を持った教職員が多数交流することで、より高いレベルの学び合いに繋がったことは、おおいに評価できる。今後も動画視聴やオンライン中心の関わり方も含め、より参加しやすく、学びやすい設計を実施していただきたい。

教育・保育の質の向上については、人権を守る保育・教育に携わる者の意識向と、実践につながる研修によるスキル向上の両方を図ることができたことは、意義深い。今後も保育の質の向上に努力していただきたい。

保幼小接続推進事業においては、互いの教育を理解し、連携する中で子どもの成長を見守るという観点から全体研修や情報交換の機会をつくり、継続的な取組に期待したい。さらに「架け橋期カリキュラム」の評価、見直しと小学校区内での幼保小交流を通して、互いの教育を理解して、有効な接続を図ることができるよう進めていただきたい。

ビジネス支援事業は、働く世代が興味をもつテーマを中心に5回の講座を開催

し、のべ310人の参加があり、講座独自性や新規性に関心を持つ市民も多く、市民の学びの場になったことは、評価できる。

多様な働き方を考える講座では、講座を4回、講演会を1回開催し、講座38人、講演会195人の参加を得た。高校生に限定して実施した講座では、参加者数が目標値を下回った結果は残念であるが、今後は、視野を広く持ち、世代を限定せずに取り組を進めていただきたい。

小学校1年生30人程度学級の実施については、本市独自の取組として教育の充実を図るため、全小学校対象に30人程度学級を実施し、きめ細かい指導が行われた。全ての小学校において実施されたことは、評価に値する。今後はさらに他学年においても実施されることを期待している。

2 多様性を認識・尊重し行動できる態度の養成

【アクションプラン掲載事業】

自殺対策推進事業においては、初任者研修と児童生徒対象にSOSの出し方授業を全校20校で開催し、児童生徒の自殺の現状や自殺に至る要因などを学び、学校として可能な対応についての理解が浸透したことは、今後の教育実践に生かされることが期待できる。

デジタルシティズンシップ教育の推進については、生駒市で新たに作成した教育情報セキュリティポリシーの研修を全教職員に対して実施し、教職員のセキュリティ意識が向上したことは評価できる。

いじめ防止等の施策推進は、早期に発見することが大切であり、そのためにも縦横の連絡、連携が必要である。生駒市いじめ問題対策連絡協議会を開催し、いじめアンケートや資料をもとに議論し、生駒市いじめ防止基本方針の改定を行った。今後も継続的に取り組んでいただきたい。

特別支援教育の充実において、特別支援教育支援員を小学校12校、中学校8校

に、のべ5,065日配置したことは、評価に値する。今後も課題等を整理し、さらに充実させていただきたい。

不登校支援推進及び校内サポートルーム事業では、学校に通いづらい児童生徒に安心して過ごせる居場所支援、支援体制の確立を行い、また、教室に入りづらい児童生徒を対象に子どもの居場所を校内に設置し(ほっとルーム・サポートルーム)、支援したことは、子どもたちにとって安心して生活できることにつながり、おおいに評価したい。環境整備、ガイドラインの作成及び校内サポートルーム支援員の配置も評価したい。

自校式通級指導教室推進事業は、8校に対して補充教員を配置し、自校で通級指導を受けることができるように体制の充実図られた。今後も支援が必要な児童生徒が、自校で通級指導が受けることができるよう、体制の充実を図っていただきたい。

スクールカウンセラー配置の拡充については、市費スクールカウンセラーを中学校で週に1回、小学校で月に2回、1回4時間、スーパーバイザー年30回、教育支援施設毎週2人の活用を行い、より多くの相談への対応が可能になったことは、評価できる。

スクールソーシャルワーカー配置の拡充においても、週に1回教育支援施設に配置し、不登校支援体制の整備における課題、及び今後の方向性についても助言をもとに体制を整備できたことは、評価できる。

図書館読書バリアフリー事業では、音訳ボランティア養成講座10回のべ137人参加、耳で楽しむ本の会12回のべ337人参加、対面音訳53回実施、宅配サービス377回実施、知的障がい者のための図書館利用55回、施設への出前2回、NAIST連携事業3回のべ57人参加等、多くの事業が行われたことを評価するとともに、今後の読書推進に期待している。

基本方針 2 学びを通してつながり合える地域であるために

1 学びをきっかけとした市民同士の交流や新たな活躍の機会づくり

【アクションプラン掲載事業】

教育行政の方針を保護者・教職員・地域の人々と共有し、共に学び考える場の設定は教育全般の充実につながる大切なポイントである。その意味においても「いこま教育フォーラム」の開催は非常に意義あるものである。1回目は芦屋市と、2回目は不登校当事者が集まる団体と協力して開催できたことは、昨年以上に効果的にフォーラムが機能し、来年度に期待が持てる。

また、幅広い世代へ学ぶ機会の提供と地域人材活用ということで、「IKOMAサマーセミナー」を開催し、講座数48、参加教員数72、のべ受講者数898人という中で、アイデアを持ち寄り特別講座や、VTuber コーナーの設置など興味を引く学びや体験の場を作り、密度の濃いセミナーとなったことは評価に値する。

人生100年時代にあって、第2・第3の人生をより充実して過ごせるようにと高齢者教育推進事業として、「いこま寿大学」の運営と「セカンドライフ充実支援講座」を実施し、講座には累計934人の参加があり、高齢者の豊かな人生づくりへの期待があると考えられる。さらに内容の充実と継続的発展を期待する。

学びと活躍推進事業においては、主に働き盛りの世代を対象に「ischool」を開催し、子育て世代のニーズに沿って多様な講座を市民と連携して企画、実施できたことは評価できる。さらに「まちミル」、「ischool for kids」、「リカレント教育エコシステム構築支援授業」（奈良国立大学機構共催）、「学びのポータルサイト」の運営等、多種多様な講座を開催したことも評価できる。

歴史・伝統文化の学びの場の提供と発信においては、「生駒ふるさとミュージアム」の事業及び高山竹林園での茶筌製作実演や、茶道体験学習支援を行った。参加校7校574人ふるさとミュージアム来館者は年間 7,289人にのぼり、幅広い世代に本市の歴史文化を伝えることができたことは評価に値する。

「音楽のまち生駒」推進事業では、「市民みんなで創る音楽祭」来場者3,150人、

「第72回リベラルコンサート」来場者700人、「いこすいフェスタ2025」来場者650人、「0才から楽しめるファミリーコンサート」来場者1,250人、「第31回ライオンズコンサート」来場者700人といずれの音楽事業も多数の来場者(計8,450人)に恵まれ、「音楽のまち生駒」を市内外に発信できたことは、おおいに評価できる。

市民との連携や「共創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくりでは、「本棚のWA」4回開催116人参加、「未在亭」3回開催93人参加、「まちかど図書室」53ヶ所、団体貸出登録数は175団体となり、様々な団体や市民と協働し、読書推進を図りながら、市民のネットワークづくりにつなげたことは、評価できる。

地域スポーツ推進事業としては、「いこまスポーツの日」参加者902人、「スポパ+(プラス)」参加者112人、障がい者のためのスポーツ施設開放事業4回開催、障がい児用運動プログラム4回開催、花園近鉄ライナーズによるラグビー体験、浅香山部屋によるちびっこ相撲体験会等、スポーツ教室や講演会等多岐にわたっての取組により、市民がスポーツに親しみ、今後の継続的なスポーツ活動に繋げたことは、評価に値し、さらなる充実発展に期待したい。

県の令和8年度から休日における教員の指導による学校部活動を廃止する方針を受けて、新たな地域クラブ活動の在り方に関する方針(案)の検討を行い、また、令和8年4月からの運用に向けて学校体育施設開放事業運用ルールの見直し、新たな地域クラブを7クラブから17クラブへと大幅に拡充するとともに、運営団体の体制強化を支援したことは評価できる。今後の地域移行を見据え、「新たな地域クラブ」の推進に繋がることを期待する。

2 市民同士がゆるやかにつながり、学び、支え合える基盤づくり

【アクションプラン掲載事業】

学校と地域住民等が力を合わせて、子どもたちの成長を育むため「放課後子ども教室」が開かれ、市内9校において開催回数170回、参加者のべ5,727人を記録

し、子どもの多様な体験・活動が広がったことは、大きな成果である。また、学校運営協議会を各小・中学校に設置し、地域に開かれた学校を推進してきたことは評価できる。

コミュニティ・スクールの推進については、学校運営協議会を市内全小中学校に設置し、各学校で地域とともに学校運営に関する協議ができたことは、地域に開かれた学校を推進するうえで、たいへん意義深いものである。

幼稚園コミュニティ・スクールにおいて、園と保護者、地域が連携して子どものため取組を進めていることは、今後の子どもたちの豊かな育ちに期待できる。

高齢者の学びを「行動」につなげられる仕組みづくりとして、寿大学のクラブ活動の「紙芝居クラブ」、「菜園クラブ」、「フードドライブクラブ」は年間を通して活動し、社会貢献につながる活動を継続的に実施していることは、評価に値する。

家庭・学校・地域が連携して家庭教育の支援事業においては、教育支援チーム「たけのこ」を中心に、学校・園などと連携のもと、親子や保護者を対象とした交流事業「たけのこふれ愛」や、家庭教育に関する情報発信などに取り組めたことは、今後の家庭教育の充実に期待が持てる。

「人を通して本を知る」「本を通して人を知る」をキャッチフレーズとするビブリオバトル全国大会が開催され、予選会5回開催のべ159人、決勝377人の参加があり、市民の読書推進とともに、本を通して繋がる全国的なネットワークを作り出したことは、評価できる。

こども読書活動における家庭・地域・学校の連携においては、「トライ！生駒子ども読者会議」の開催や講演会、事例発表、ワークショップ等3回の開催でのべ172人の参加があり、家庭・地域・学校から様々な人が集まった。子どもの読書活動に関する情報共有を行い、学び合ったことで、今後の課題解決や活動の充実に期待できる。

生駒市のスポーツ活動の推進については、総合型地域スポーツクラブ育成・支援

事業及びスポーツ推進審議会の開催、スポーツ推進委員の運営に集約される。誰もが身近な地域でスポーツ活動が行えるよう各クラブの周知啓発活動支援、生駒市総合型地域スポーツクラブ連携会議の開催等、市内総合型クラブが主体となる仕組みづくりが行われたことは、評価できる。また、スポーツ推進審議会及びスポーツ推進委員会議の開催により、今後更なる地域スポーツ推進が継続的に発展することに期待している。とりわけスポーツ・レクリエーション活動や社会体育施設の利用において、多大な実績を上げていることは、市民のニーズにあったものと理解し、今後の事業・取組に期待するものである。

基本方針3 多様な学びを支える環境づくりのために

1 「楽しい学校園づくり」のための学校園運営体制の整備

教職員がやりがいをもって働ける環境整備のための、スクールサポートスタッフの全校配置や、部活動の地域移行の取組は評価できる。職員がゆとりをもって授業改善を始めとする教育活動に取り組める職場を目指すうえで、学校運営の要である教頭の業務改善は重要である。アクションプランでも教頭を対象とした研修会や外部コンサルタントによる講義・対話ワークショップの実施などを進めている。保護者宛文書の一体的なデジタル化の推進や教頭の働き方改革 PT の発足など多くの取組を設定・実行することで、一定の効果が認められる。

また、教職員の業務改善の取組として生駒市教職員・職員勤務時間適正化会議と生駒市教職員勤務時間適正化ワーキンググループを設置・開催し、留守番電話の設定時刻の見直しや自動録音装置の予算化を進めた取組は大いに評価できる。引き続き業務内容を分析、再定義し取組を進めていただきたい。

改革を進めるうえで保護者や地域への情報発信も重要である。学校の業務改善には保護者や地域の理解が不可欠である。学校評価の実施・公表やホームページでの情報掲載などによる開かれた学校づくりを継続していただきたい。

講師不足対策として、教員免許や保育資格を有する人材を登録する「いこま教育・保育資格バンク」や講師希望者を対象とした研修「いこま教師塾」は大きな成果をあげている。今後も講師登録者数の維持・拡充と研修の質的向上を通して、目標の達成を目指していただきたい。

子育て支援事業の市立幼稚園全園においての預かり保育時間の見直しは、保護者の働き方の幅を広げ大きな成果を上げた。また、特別支援介助講師を4、5歳クラスに24名加配し、一人ひとりの特性に応じたきめ細かい支援が行われたことも評価したい。

ミドルリーダー層以上の教員及び教育委員会事務局の先進校視察は、実施する事業の目的に応じた職員が参加することで、共通理解を図ることができ、効果的な事業の推進の体制を整えることができる取組である。

2 こどもたちの新たな学びを創出する環境整備

学校園の施設・設備の改修や改善は、計画的に進めなければならない。建築40年程度経過した学校や保育所の大規模改修事業は、時代の変化や教育・保育内容の多様化にも柔軟に対応できるよう改修しなければならない。

上中学校の大規模改修工事はスケジュールの大幅見直しが必要となっているが、再調整を慎重に進めていただきたい。

生駒南小学校・中学校の整備事業は、「共創スタジオ」による関係者とのワークショップを実施し、きめ細かく市民に事業への理解を求め、教育内容と施設計画の一体化を目指して進めていることは評価できる。

壱分幼稚園のこども園化は、公私連携幼保連携型認定こども園となる事業である。保護者・地域への説明や協議を重ね、既存園舎の解体を実施し新園舎の工事が始まっている。保護者のニーズや保育・教育のさらなる質の向上を図り進めていただきたい。また、老朽化した市立保育所についての修繕などを行い、適切な維持管理に努めていただきたい。

生駒市学童保育運営協議会が運営する学童施設には、令和7年10月現在1,823人が在籍している。学童保育需要が増加している地域での小学校施設の活用や民間学童保育所の誘致により、希望者全員の入所を達成したことは評価できる。

学校教育の中で読書習慣を身に付けさせることは、極めて大切なことである。しかし「読書離れ」が叫ばれて久しい。情報化社会の進展は、自分でものを考えずに断片的な情報を受け取るだけの受け身の姿勢を人々にもたらしやすい。これからの時代の学校図書館のあり方を創造し、児童生徒が自主的・自発的に読書や調べ学習をする場となることを課題に、学校司書の先進地視察や学校図書室の展示・空間づくりの工夫などの取組を進めていることは評価できる。今後も、学校図書館を利用して学びを深めるための環境づくりを進めていただきたい。

一人一台端末導入の今、アクセス場所を問わず、校務と学習のシステムが利用できる教育ネットワーク更新のため、セキュリティを担保しながら校務系ネットワークと学習系ネットワークを統合する取組を進めた。令和6年にネットワークを構築し、令和7年4月から運用を開始した。運用当初の負担はあったがセキュリティの向上やロケーションフリーの環境整備により、教職員の執務環境の向上と、学校現場の負担軽減につながったことはおおいに評価できる。

少子化に歯止めをかける子育て支援は、様々な分野で取り組まれている。保育料の段階的な無償化は国へ要望しているが、令和6年度に市独自で第2子無償化を行い、多子世帯の負担軽減を図ったことは評価できる。今後も、国の制度化に向けての要望を続けていただきたい。

待機児童の解消に向け、保育士確保の取組や私立保育園施設への助成、生駒駅周辺の保育施設の整備を進めている。しかし、令和8年4月時点で25名の待機児童がおり、今後も課題解消に向けての取組を継続しなければならない。

3 全ての市民が安心して学び成長できるための環境整備

「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」は、困難を抱える子ども・若者が就学や就業など自立した社会生活を営むことができるよう、教育・福祉・就労・子育て更生保護など、各分野が連携して効果的かつ円滑な支援を実施することを目的に、平成29年に設置された。また、平成30年には、ネットワークの拠点として、「生駒市子ども・若者総合相談窓口（ユースネットいこま）」が設置された。多くの不登校・ひきこもりの当事者や家族が相談支援を受け、17人の進路が決定した。相談件数や、新規相談者数は昨年度を上回ったが、困難を抱えている当事者や家族はまだ多く、さらなる取組に期待したい。

図書館リニューアル事業や生涯学習施設整備事業、体育施設整備事業は、利用者が安心・安全・快適に利用できるよう、改修・整備・維持管理が行われている。市民の活動の場、まちづくりの拠点、災害時には避難所となる施設の環境整備を、計画的に行っていることは評価できる。とりわけ、総合公園体育施設リニューアル事業では、基本構想に基づいて体育館の建設や市内スポーツ施設や小中学校のプールの集約化、奈良県で開催予定の「第85回国民スポーツ大会・第30回全国障害者スポーツ大会」の会場にふさわしい規模・機能の検討を行った。また、概算工事費を含む基本計画（案）を策定し、市民や市議会への報告を行った。財政面に配慮し、多様な市民の意見を反映し大規模な整備を計画的に進めていただきたい。

市民が興味・関心や親しみを持って、地域に根付いた歴史や伝統文化・芸術に触れることは、より豊かなまちづくりにつながる。生駒市への愛着を深め、将来の生駒市を考えるための事業として『生駒市史』の編さんは意義深い。市内在住の研究者や学校関係者、ボランティアの参画により、生駒市史第1巻・史料集2冊の編集・刊行したことは大いに評価できる。また、市史編さん収集資料活用事業「いこま歴史アーカイブ」にも期待したい。

生駒ふるさとミュージアムにおいての、文化財や歴史をテーマにした企画展や特別展、各種講座や講演会にも多くの来場・聴講者があった。生涯学習施設で行われ

た芸術文化活動には小中学校との連携で、子どもの参加が増え39,482人の参加があった。多くの市民が参加する事業を企画・開催したことは高く評価できる。引き続き魅力あるイベントの企画・開催をおおいに期待している。

令和8年8月4日

生駒市教育委員会活動点検評価委員 十文字 良 明

生駒市教育委員会活動点検評価委員 藤 林 鉄 彦